

# CSR REPORT

東芝テックグループ CSR報告書

## 2009



# モノ創りへのこだわりと挑戦 いつでも

## 「東芝テックグループCSR報告書2009」の発行にあたって

東芝テックグループでは、健全な事業活動には、株主、お客様、従業員、地域社会、環境など、東芝テックグループのすべてのステークホルダーに配慮した事業運営が必要であるとの認識のもと、2005年4月にCSR推進センターを新設、CSR推進体制を確立させるとともに、その説明責任を果たすため、本年もより報告範囲を充実させた「東芝テックグループCSR報告書2009」を



発行いたしました。

発行いたしました。

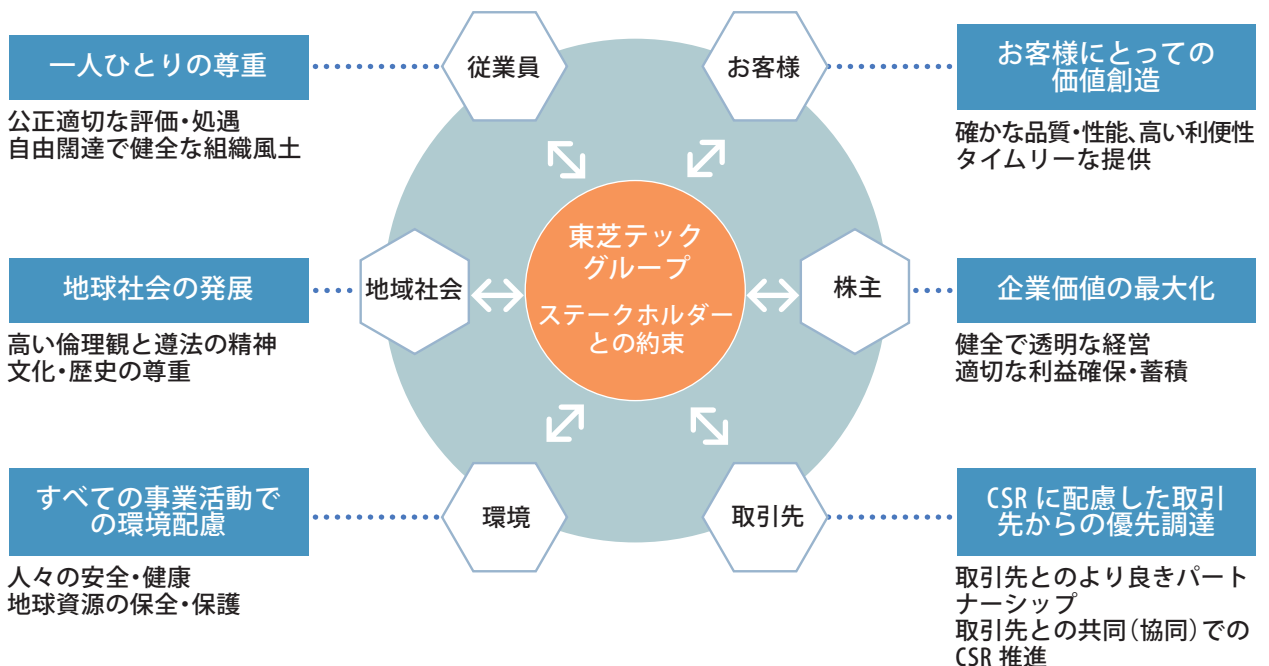
本報告書では、東芝テックグループへの理解を深めていただくため、CSR活動を「マネジメント」、「人と東芝テック」、「環境と東芝テック」の3つの観点から、さまざまな活動の考え方、仕組みをわかりやすく紹介することに重点をおきました。

本報告書を通じて、多くのステークホルダーの方々に東芝テックグループのCSR活動をご理解いただけるよう、今後とも内容の充実に努めてまいります。

### ステークホルダーとの関わり

私たちは、世界中の数多くのステークホルダーに支えられていることを認識し、経営理念

「私たちの約束」を守ることにより、ステークホルダーとともに発展することをめざしています。



# どこでもお客様とともに

## 東芝テックグループの概要

社名	東芝テック株式会社 TOSHIBA TEC CORPORATION
本社所在地	〒141-8664 東京都品川区東五反田2-17-2 オーバルコート大崎マークイースト
取締役社長	鈴木 護
設立	1950年2月21日
資本金	399億円(東京証券取引所第1部上場)
売上高	4,226億円(2009年3月期)
従業員数	19,851名(2009年3月末現在 連結)

### 報告対象範囲

報告期間	2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)
対象組織	原則として東芝テックグループ (東芝テック(株)および東芝テック(株)の連結対象 子会社)
環境データ	東芝テック(株)および連結対象子会社31社

### 発行時期

前回	2008年7月
次回	2010年6月発行予定

### 参考にしたガイドライン

GRI (Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・リポーティングガイドライン2002」
「サステナビリティ・リポーティングガイドライン2006 第三版 和訳暫定版」
環境省 「環境報告書ガイドライン」(2003年度版)
環境省 「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン」(2003年度版)

## contents

トップメッセージ	3
----------	---

### 序章

経営理念	5
事業展開	6

### マネジメント

コーポレート・ガバナンス	7
CSR マネジメント	8
コンプライアンス	9

### 人と東芝テック

株主・投資家	11
お客様	12
従業員	15
取引先	18
社会貢献活動	19

### 環境と東芝テック

環境経営マネジメント	25
エコプロダクツ	29
エコプロセス	33
環境コミュニケーション	35

第三者意見	37
GRI ガイドライン	38
アンケート	39

冊子とウェブサイトについて	40
---------------	----



## 経営理念に基づき、信頼される「地球内企業」をめざします。

### 経営理念に基づき事業活動を展開します

東芝テックグループは、事業を通じて新しい価値を創造し、社会に貢献するとともに、高い経営倫理の実践により、お客様、従業員、社会、環境をはじめとしたすべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様との相互の繁栄を図ることを理念として、事業活動を展開しています。

グローバルに事業を展開する東芝テックグループにとっては、それぞれの国や地域におい

て、ステークホルダーの皆様のご期待・要望に応え信頼を得ることが、企業グループとして持続的な成長を遂げていくうえで不可欠であると考えています。

この考えを経営理念「私たちの約束」として具現化し、全世界のグループ従業員が、経営理念に基づいた「東芝テックグループ行動基準」によって行動することにより、この考えを共有、実践しています。

## 生命・安全・コンプライアンスを最優先します

東芝テックグループが事業活動を展開する上で、社会から信頼される存在であるためには、法令、社会規範、倫理の遵守を最優先し、これを徹底することが当然の責務です。そのために、全世界のグループ従業員に、「東芝テックグループ行動基準」の浸透・徹底を図るとともに、私をCRO\*として、営業・技術・生産をくまなくカバーするリスク・コンプライアンス体制を構築しています。

また、東芝テックグループでは、生命・安全を脅かす事故の発生を未然に防ぎ商品の安全を確保するというメーカーの責務を果たすために、グループ・グローバルで品質保証システムを強化し、お客様が安心してお使いいただける商品とサービスの提供に努めています。

\* CRO (Chief Risk-Compliance Management Officer 「リスク・コンプライアンス統括責任者」)

## 「地球内企業」としての事業活動を推進します

東芝テックグループは、常に「地球内企業」であることを念頭に事業活動を推進しています。

「地球内企業」には、2つの意味を込めています。

一つは、より良い地球環境の実現のために率先して企業としての役割を果たしていくこと。

すべての事業プロセス、すべての製品において、持続可能な社会の構築の為、東芝テックグループでは地球資源の保全・保護を最優先に考えた取り組みとして、2012年度を目標とする環境プランを進めています。世界中で開発・製造・販売という事業活動のあらゆる面で環境負荷を低減

するとともに、CO<sub>2</sub>排出量削減にも積極的に取り組んでいます。

もう一つは、世界のそれぞれの国々・地域の文化や歴史、習慣の違いを認識し、尊重する企業であること。

地球上には、民族、性別、年齢など、一人ひとり個性を持ったさまざまな人が生活しています。東芝テックグループでは、これら一人ひとり異なるパーソナリティーがお互いに啓蒙しあうことにより生まれる新しい発想に注目し、多様性を尊重した人材活用を行って、「地球内企業」の名に相応しい人材の育成に努めていきます。

また、働き方の変革への意識を高め、常に個の付加価値を向上させるための、ワークスタイルイノベーションに取り組んでいます。

この2つをもって社会の持続的成長の実現に貢献していきたいと考えています。

## ステークホルダーの皆様への説明責任を果たしていきます

東芝テックグループは、お客様、株主・投資家、従業員、地域社会、調達取引先などさまざまなステークホルダーの皆様に支えられています。さまざまなコミュニケーションの機会を通じ、ステークホルダーの皆様の関心事をとらえ、説明すべき事項は適時ご説明して誠実な対応を心掛けていきます。

2009年7月

東芝テック株式会社  
取締役社長

鈴木 護

## 私たちの約束

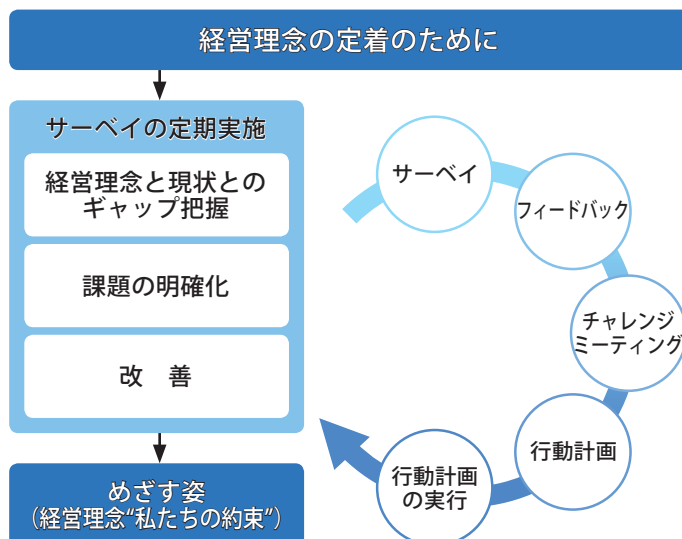
— 東芝テックグループの経営理念 —

### モノ創りへのこだわりと挑戦 いつでもどこでもお客様とともに

1. 私たちは、お客様にとっての価値創造を原点に発想し、世界のベストパートナーと共に、優れた独自技術により、確かな品質・性能と高い利便性をもつ商品・サービスをタイムリーに提供します。
2. 私たちは、社員一人ひとりを尊重し、それぞれの能力向上に努め、公正かつ適切な評価・処遇を実践すると共に、自由闊達で健全な組織風土と、挑戦し続ける強いプロ集団をつくります。
3. 私たちは、よき企業市民として、高い倫理観と遵法の精神をもち、各国及び地域社会に対する責任を果たすと共に、その文化・歴史を尊重し、地球社会の発展に貢献します。
4. 私たちは、人々の安全・健康と、地球資源の保全・保護のために、すべての事業活動において環境への配慮を優先します。
5. 私たちは、企業価値の最大化を目指し、健全で透明な経営の基に、研究開発などへの積極的な投資、不断の経営変革、並びに、適切な利益の確保と蓄積に努め、これにより株主の期待に応えます。

### 経営理念の定着化

東芝テックグループでは、経営理念「私たちの約束」を事業経営の基本におき、これを東芝テックグループ全員の「共通の価値観」とするべく、経営理念サーベイを実施しています。この経営理念サーベイの「PDCAサイクル」(マネジメントのサイクル)により、全従業員へ経営理念の浸透・徹底を図っています。



# 私たちの使命は「モノ創り」を通して世界に貢献すること

店舗、オフィスなど、東芝テックグループの製品は多くの分野で活躍。世界中のステークホルダーに支えられていることを認識して、事業活動を推進しています。

## 東芝テックグループの事業展開

東芝テックグループでは、リテール ソリューション、ドキュメントシステム、オートID・プリンタの3つの事業を各事業分野の強みや販路を共有し、グローバルに展開しています。

### リテールソリューション事業

リテールソリューション事業は、POSシステム、電子レジスター、計量器、OA機器並びにサプライ商品等の開発・製造・販売・保守サービス事業を行っております。



### オートID・プリンタ事業

オートID・プリンタ事業は、バーコードシステム、RFIDシステム等のオートIDシステム、プリンタ、専用端末機等の開発・製造・販売・保守サービスを行っております。



### ドキュメントシステム事業

ドキュメントシステム事業は、複合機、ファクシミリ、各種ユニット部品等の開発・製造・販売・保守サービス事業を行っております。

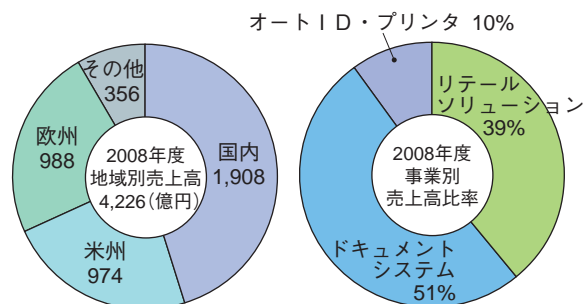
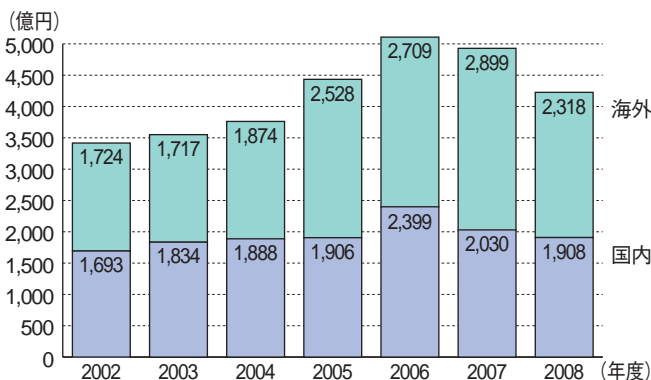


### インクジェットヘッド事業

産業用インクジェットヘッドの開発・製造・販売を行っております。



### 売上高（連結）推移



## 経営の透明性の確保、経営監視・内部統制機能の強化などに取り組んでいます。

### 企業価値の向上をめざして

東芝テックは、ステークホルダーの期待に応え、継続的に企業価値を高めていくための重要な経営政策と認識し、経営の効率性および透明性の向上、取締役会および監査役(会)の機能の強化を図るため、各種の施策に取り組んでいます。

会社の機関面では、監査役制度の下で執行役員制度を導入し、「監督・意思決定に係る機能」の分離などを行うとともに、取締役の員数の適正化を図り、意思決定の迅速性・機動性の向上に努めています。併せて、経営の透明性の確保を企図して、社外取締役(2名)および社外監査役(2名)を登用するとともに、経営責任の明確化および経営環境の変化への迅速な対応を企図して、取締役の任期を1年としております。

また、東芝テックグループは、業務の有効性および効率性、財務報告の信頼性、事業活動に係る法令等の遵守並びに資産の保全という観点から、内部統制システムの充実に努めています。

コンプライアンスについては、グループ共通の行動規範として「グループ行動基準」を制定し、従業員一人ひとりがこの行動基準を遵守し、法令・社会規範・倫理に則し

た行動を行うよう、周知徹底に取り組んでおります。また、「リスク・コンプライアンス委員会」を設置し、この委員会の統括下でコンプライアンスの徹底にグループ一体となって取り組んでいます。

経営監視面では、取締役による業務執行の監督、監査役による業務監査、会計監査人による会計監査を実施するとともに、社長直属組織「経営監査部」による内部監査を実施しております。

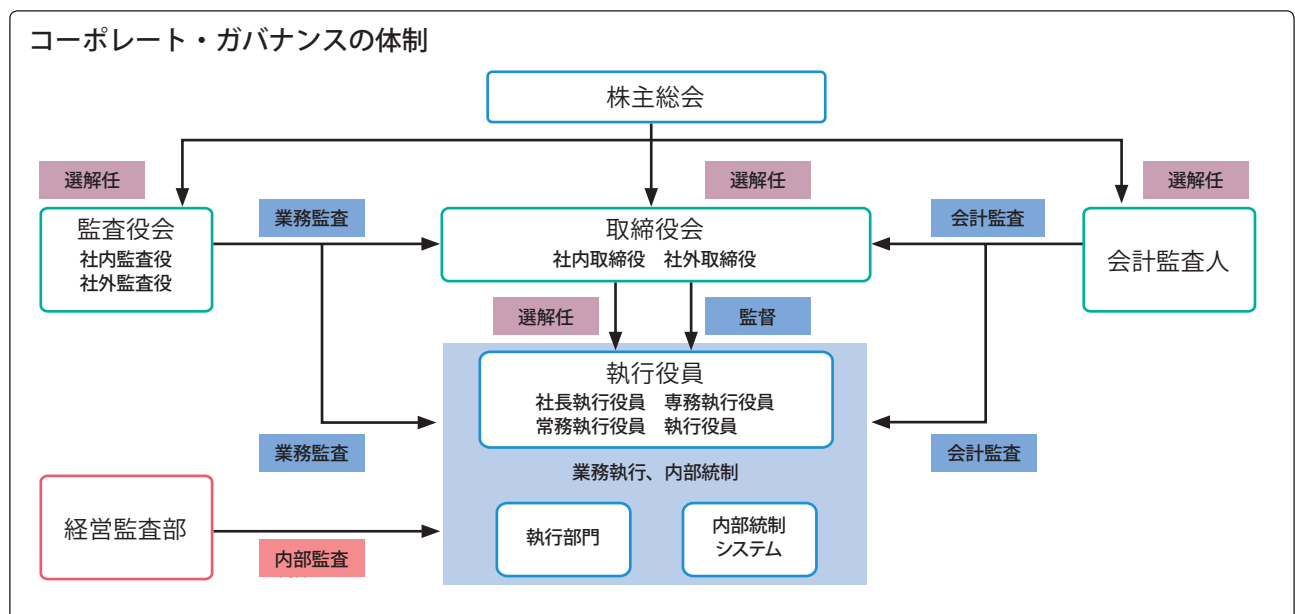
2008年度においては、財務情報の信頼性確保に関する内部統制システムの整備・運用、独占禁止法等遵守体制の強化、情報セキュリティおよび個人情報保護の強化、コンプライアンス意識の徹底を中心に、各種施策を実施しました。

### 内部監査

内部監査部門である経営監査部が、リスク・コンプライアンス体制、内部統制システムなどの有効性について監査を実施し、評価と提言を行っています。また、環境管理、情報セキュリティ、安全保障輸出管理などの各種監査は、それぞれの担当部門が経営監査部と連携して実施しています。

#### 内部監査の主な担当部門と内容一覧

担当部門	内容
経営監査部	経営監査、業務監査、コンプライアンス監査など
品質・環境企画部	環境マネジメントと環境管理上の実績について
IT戦略システム部	情報セキュリティおよび情報システムの管理体制について
輸出管理部	安全保障輸出管理について





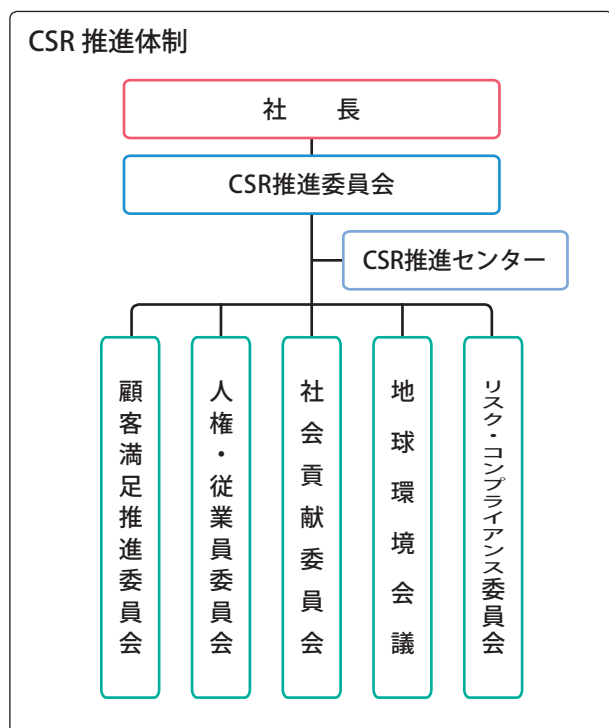
CSRを経営の中核に位置づけた事業運営を実践しています。

## CSR マネジメント

東芝テックでは、CSRを企業経営の中にしかりと位置づけるため、CSR推進センターを中心に、法令・企業倫理を遵守する「コンプライアンス」を前提とした、「顧客満足」、「人権・従業員」、「社会貢献」、「地球環境」といったCSR関連諸活動を体系化し、推進体制を整備しています。

具体的には、社長を委員長としたCSR推進委員会を設置し、この委員会においてCSR推進活動の基本方針、基本計画などの重要事項の立案、方向づけを行っています。また、CSR推進委員会の傘下に、顧客満足、人権・従業員、社会貢献、地球環境、リスク・コンプライアンスなど各活動の委員会を配置し、それぞれが活動方針や活動計画を策定・実行しています。

そして、法令や企業倫理を守り、誠実で透明な経営であること、地球環境に配慮すること、地域社会に貢献することの積み重ねが、企業の継続的発展の前提であると考えています。



## 東芝テックグループ行動基準

東芝テックグループの経営理念は、グローバルに事業活動を展開するにあたり、法令を遵守し、社会規範・企業倫理に則って行動するとともに、顧客満足、人権尊重、社会貢献、地球環境保全などについて、企業の社会的責任（CSR）を果たすことを基本方針としています。これらの基本方針を実現するために、東芝テックグループのすべての役員・従業員が共有する価値観と行動規範を明確化した「東芝テックグループ行動基準」を定めています。

行動基準は、東芝テックグループが社会に貢献し、社会からの信頼と尊敬を得るための行動指針として、東芝テックグループ全員が日々の活動の中で実践しています。

「東芝テックグループ行動基準」は、13カ国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、オランダ語、スペイン語、ポルトガル語、スウェーデン語、イタリア語、ポーランド語、韓国語、マレー語、インドネシア語）に翻訳され、海外の東芝テックグループ各社で採択され、それぞれの会社の行動基準として実践されています。

WEB 東芝テックグループ行動基準の全文は、ウェブサイトでご覧いただけます。

URL <http://www.toshibatec.co.jp/company/actionj.html>

## 東芝テックグループ行動基準

### 第1章 事業活動に関する行動基準

1. お客様の尊重
2. 生産・技術活動および品質活動
3. 営業活動
4. 調達活動
5. 環境活動
6. 輸出管理
7. 独占禁止法等の遵守
8. 官公庁との取引
9. 不適正な支出の禁止
10. 技術者倫理の遵守
11. 知的財産権の尊重
12. 適正な会計
13. 広報活動
14. 広告活動

### 第2章 会社と個人の関係に関する行動基準

15. 人間の尊重
16. 会社情報・会社財産の保護

### 第3章 会社と社会との関係に関する行動基準

17. 社会とのかかわり
18. 政治寄付等

高い倫理感と、遵法の精神を醸成することにより、不祥事を防止。また、万一の発生時にも適切かつ迅速な行動で対応します。

## リスク・コンプライアンスマネジメント

東芝テックグループでは、「東芝テックグループ行動基準」の浸透・徹底やリスクマネジメント施策を推進するため、各社社長をCRO<sup>\*1</sup>に任命し、トップが率先して各種施策の立案・推進、緊急事態への対応などを行っています。

東芝テックでは、CROを委員長とするリスク・コンプライアンス委員会<sup>\*2</sup>を開催し、東芝テック施策に加え、東芝テックグループ全体の体制整備、リスク・コンプライアンス対応の高度化に係る施策の立案・推進を行っています。

また、従業員がリスク・コンプライアンス情報を積極的に提供・報告することができるよう、「CRO」や「社外弁護士」に直接通報する「内部通報制度」を導入・運用しています。また、取引先からも通報できるよう、「東芝テックパートナーホットライン」(お取引先様通報制度)を当社ウェブサイト上に開設しています。

\*1: CRO (Chief Risk-Compliance Management Officer 「リスク・コンプライアンス統括責任者」)

\*2: リスク・コンプライアンス委員会:リスク・コンプライアンスに関する全社重点施策の策定・統括を行い、リスク・コンプライアンス体制の維持管理を強化推進しています。

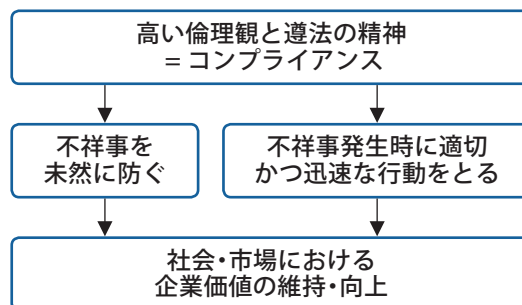
WEB  東芝テックパートナーホットライン

URL <http://www.toshibatec.co.jp/contacts/partnerline/indexj.html>

## コンプライアンス教育

東芝テックグループでは、遵法の精神やコンプライアンス意識の醸成を図るため、定期的に各種コンプライアンス教育を行っています。グローバルな事業展開に対応するため、海外で勤務する従業員への教育にも力を入れています。海外のグループ会社においては、地域の特性などを考慮したコンプライアンス教育を実施しています。

また、このほかに「情報セキュリティ」、「個人情報保護」、「輸出管理プログラム」、「環境教育」についても、従業員一人ひとりに教育を実施しています。

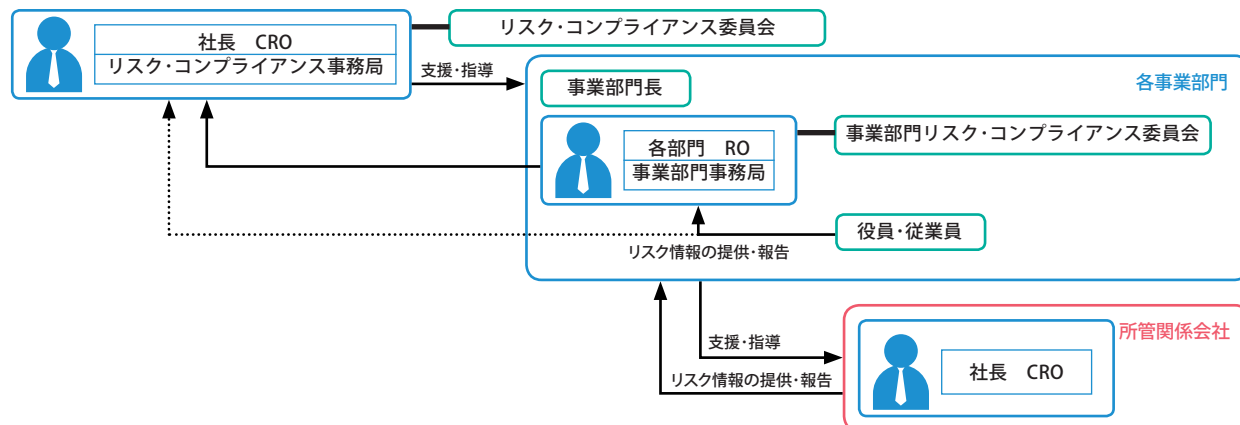


## コンプライアンス教育の例

- 東芝テックグループ行動基準教育
- 営業リスク・コンプライアンス教育
- 海外赴任者・長期出張者向け教育
- 技術者倫理教育
- 米国弁護士によるPLセミナー
- 中国法務セミナー



## リスク・コンプライアンスマネジメント体制



## 情報セキュリティ

### 1) 情報セキュリティの取り組み

東芝テックでは、社会環境の変化に対応して、情報セキュリティに関する規程類の見直しや各部門での自主監査など継続的な改善活動を行っています。

また、情報を取り扱う上での事故防止、情報セキュリティを確保するためのルールの学習にe-ラーニングなどを活用して、役員・従業員および協力会社の派遣者を含めた教育を継続して実施しています。2008年度は「厳格な管理を要する情報」について取扱基準を定めるなどセキュリティ強化に努めています。

東芝テックグループ各社においても、同様な施策を展開しており、グループ丸となって情報セキュリティの維持、向上に取り組んでいます。

### 2) 情報セキュリティ対策

インターネットと社内ネットワークとの間にファイアーウォールを設置して、インターネットから社内ネットワークへの不正侵入、また情報の漏洩を防止しています。

各クライアントパソコンにはコンピュータウイルス検査・駆除ソフトを組み込み、ウイルスの最新情報を常にチェックし、感染を未然に防止できるよう万全を期しております。

重要な情報や情報システムは、社外の安全なデータセンターに設置したサーバで管理し、災害などのリスク対策を講じています。さらに、利用できる情報の制限および利用記録の管理、個人情報等の機密情報の暗号化対策など、セキュリティの強化を図っています。

## 安全保障輸出管理

### ● 輸出管理に関する方針

近年、国際社会において安全保障を脅かすおそれのある国・地域やテロリストへの大量破壊兵器および、通常兵器等の拡散防止が重要な課題となっています。

東芝テックグループにおける輸出管理の基本方針は、「事業活動を行う国や地域の輸出管理に関する法令(日本の場合は外為法)、および米国原産貨物・技術の取引を行う場合は米国の輸出管理に関する法令を遵守すること」「国際的な平和と安全の維持を阻害するおそれのある取引に関与しないこと」です。

この基本方針に基づき「輸出管理プログラム」を策定するとともに輸出管理体制を構築し、厳格な輸出管理を実施しています。

### ● 輸出管理に関する体制

当社の輸出管理体制は、代表取締役を輸出管理の最高責任者に充て、その最高責任者のもとに、東芝テック輸出管理プログラムの運用全般を管理する組織として輸出管理部を置いています。事業本部などでは事業本部長が、コーポレート・スタッフ部門ではスタッフ部門長が輸出管理を統括する輸出管理統括責任者として、輸出管理を実施しています。

この体制のもと、厳格な輸出管理の実現のため、以下の項目を実施しています。

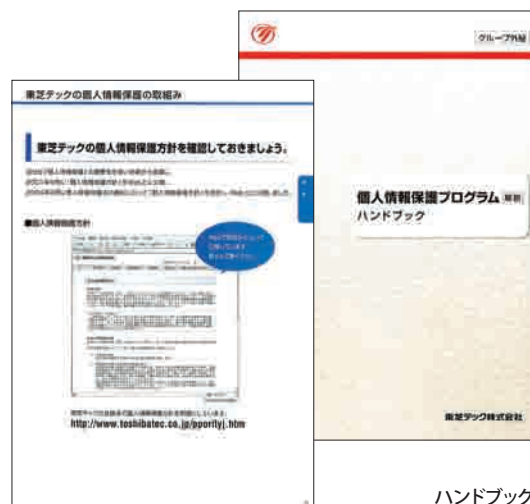
- ・貨物・技術の該非判定
- ・取引審査
- ・輸出管理監査
- ・輸出管理教育
- ・所管グループ会社に対する指導・支援

## 個人情報保護

東芝テックグループでは関連法令を遵守し、個人情報の漏洩防止に万全を期すために、個人情報の管理体制や適切な取り扱い方法などを定めた各種社内規程を制定するとともに、従業員教育、携帯用電子機器などの物理的管理措置を強化するなど、個人情報保護の徹底に努めています。

具体的には、「個人情報保護方針」をウェブサイトなどで公開するとともに、個人情報の取り扱いや社内の管理体制を定めた「個人情報保護プログラム」を制定しています。

さらに、この個人情報保護プログラムをわかりやすく解説したハンドブックを全従業員に配布するとともに、全従業員一人ひとりが個人情報保護に対する感度を高め、事業活動を展開するにあたり個人情報保護を徹底するよう、全従業員に対する教育を実施しています。

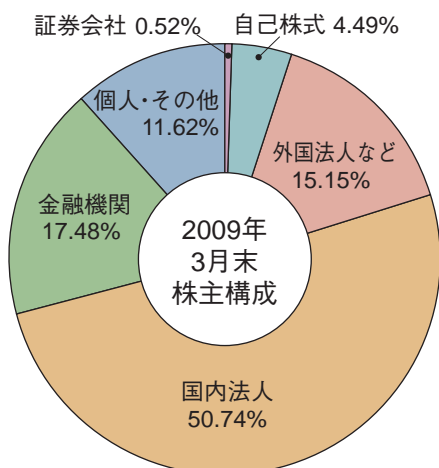


ハンドブック

# 株主・投資家と東芝テック

さまざまな機会を通じ、株主・投資家の方々に東芝テックを正しくご理解いただき、信頼を得られるよう努めています。

## 株主構成



## 株主とのコミュニケーション

東芝テックは、株主総会が株主との直接のコミュニケーションの場として重要であると認識しています。

株主総会では、事業概況や中期経営計画をビジュアル化して報告するとともに、終了後にショールーム見学会を実施して、出席された株主に、よりわかりやすく、より深く「東芝テック」を理解いただけるよう、努めています。

一方、ビジネスレポートを作成し、これをすべての株主に送付するとともに、ウェブサイトに掲示することで、株主や投資家にできる限り「東芝テック」を理解いただけるよう努めています。ビジネスレポートは事業概況のほか、主な商品、業績予想を始めとした情報を、図表や写真を活用してわかりやすく作成しています。



ビジネスレポート

## 情報開示

東芝テックは、株主をはじめ投資家や地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様へ、東芝テックを正しくご理解いただき信頼を得られるよう、経営方針、決算情報、財務情報など企業情報の適時・適切な開示に努めています。

具体的には、重要な会社情報が生じる都度、法令・社内規程などに基づいて、迅速・正確・公平な情報開示を行うほか、機関投資家・証券アナリストなどを対象とした決算説明会（年2回）などをそれぞれ開催しています。

また、東芝テックウェブサイトにおいても、事業運営上の開示情報をわかりやすく速やかに掲載することに努めています。

インサイダー取引を防止するための厳格な情報管理を行っています。

## 2008年度年間コミュニケーションスケジュール

月	コミュニケーション内容
4月	決算発表 決算説明会
6月	株主総会招集通知発送 ビジネスレポート発送 株主総会決議通知発送 有価証券報告書開示 CSR報告書発行
7月	第1四半期決算発表
10月中旬	第2四半期決算発表 中間決算説明会
12月	中間ビジネスレポート発送
1月	第3四半期決算発表



決算説明会

# 安全で確かな品質の商品をお届けします

お客様視点に徹し、全従業員が品質保証活動に取り組んでいます。

## お客様の信頼を原点に、品質イノベーション

東芝テックはニーズを先取りする高品質製品と、期待を超えるサービスを提供し、安心して使い続けていただくことでお客様との信頼が築かれると考えます。お客様の声 (VoC) を的確に把握して技術を開発し、CAD (コンピュータ設計)・シミュレーションや品質工学を駆使してお客様のあらゆるご使用環境・条件を想定した設計、徹底した検証と評価、そして社内全部門が一体になった同時並行開発により短時間に低コスト・高品質を同時に実現させる二律背反の課題に果敢に挑戦しています。2008年度に発売したPOSシステム、およびデジタル複合機の新製品では、開発・設計段階で故障が発生しうるモードを徹底して予測し、未然防止する品質イノベーション活動に取り組みました。その結果、従来モデルに比べ設置後の故障が大幅に減少し、これまで以上にお客様の業務向上にお役立ていただける商品を実現できました。

一方、導入製品をいつも最良のコンディションでご



ヘルプデスク

使用いただけるよう、日本国内をはじめワールドワイドにサービス体制を整えています。定期点検や修理にお伺いした際に、またヘルプデスクに寄せられるお客様の声こそがイノベーションの原点です。

## 安全・安心をお届けするモノづくり

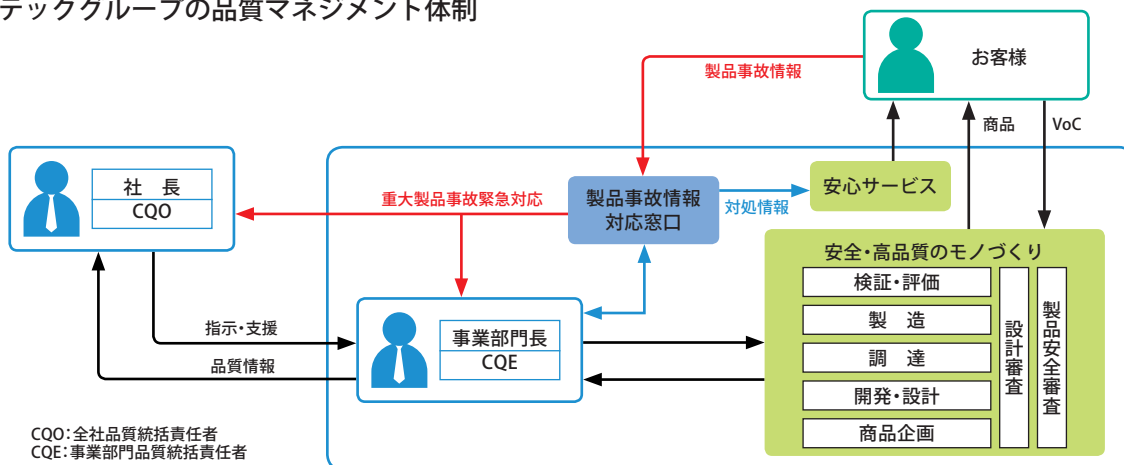
電気用品安全法など、国内外の安全に関する法令・規格を遵守することはもとより、東芝テック独自に基準を強化し、製品の設計・開発から製造・販売に至る各段階で機能や信頼性を評価するデザインレビュー (設計審査) と、PSレビュー (製品安全審査) 制度を運用して、安全な製品づくりを徹底しています。昨今の動向として技術基準を強化するだけでなく、適切なリスクアセスメントの実施が求められます。法制化に先立って当社は、(財)日科技連が提唱するリスクアセスメント手法であるR-Mapを取り入れています。

また万一、重大な製品事故に関する情報を受けた場合には、社長指示の下、CQO (全社品質統括責任者) を実行責任者に、迅速、真摯に対応する体制を整えています。

## 人材と風土をはぐくむ

製品安全と信頼性の専門性を持つ技術者、リスクアセスメント手法の専門家育成と、製品開発にあたる技術者への品質、信頼性、安全、コンプライアンスの基本的スキル醸成を継続しています。2008年度は「製品安全セミナー」「安全法令・規格セミナー」「信頼性セミナー」「品質工学セミナー」「技術者倫理教育」を実施しました。

### 東芝テックグループの品質マネジメント体制



# お客様に喜んでいただける商品・サービスをお届けします

お客様の立場に立って考え、行動し、お客様が納得して喜んでいただける商品やサービスを提供することを第一に事業活動を行っています。

## お客様の声を大切にします

東芝テックグループの経営理念には、『私たちは、お客様にとっての価値創造を原点に発想し、世界のベストパートナーと共に、優れた独自技術により、確かな品質・性能と高い利便性をもつ商品・サービスをタイムリーに提供します。』と制定されています。

この私たちのめざす姿を実現するために、従業員一人ひとりが、お客様は何を求めているのか、お客様にとっての価値は何かを、つねにお客様の立場にたって考え行動することにより、お客様が納得し、お客様に喜んでいただける商品やサービスを提供することを第一に事業活動を行っています。

## お客様満足度向上のための方針

東芝テックグループでは、2003年に策定された「東芝グループCS推進方針」に基づき、お客様にご満足いただける製品、システム、サービスの提供や、お客様とのコミュニケーションを通じて、お客様満足の向上をめざしています。

注) CS:お客様満足(Customer Satisfaction)

## 東芝グループCS推進方針

東芝は、お客様の声をすべての発想の原点とし、お客様にご満足いただける製品、システム、サービスをご提供します。

- (1) 安全で信頼される製品、システム、サービスを提供します。
- (2) お客様からのご要望、ご相談に誠実、迅速、かつ的確にお応えします。
- (3) お客様からの声を大切にし、お客様にご満足いただける製品、システム、サービスの開発、改善を実現するよう努力します。
- (4) お客様に、製品等に関する情報提供を適切に行います。
- (5) お寄せいただいたお客様の個人情報を保護します。

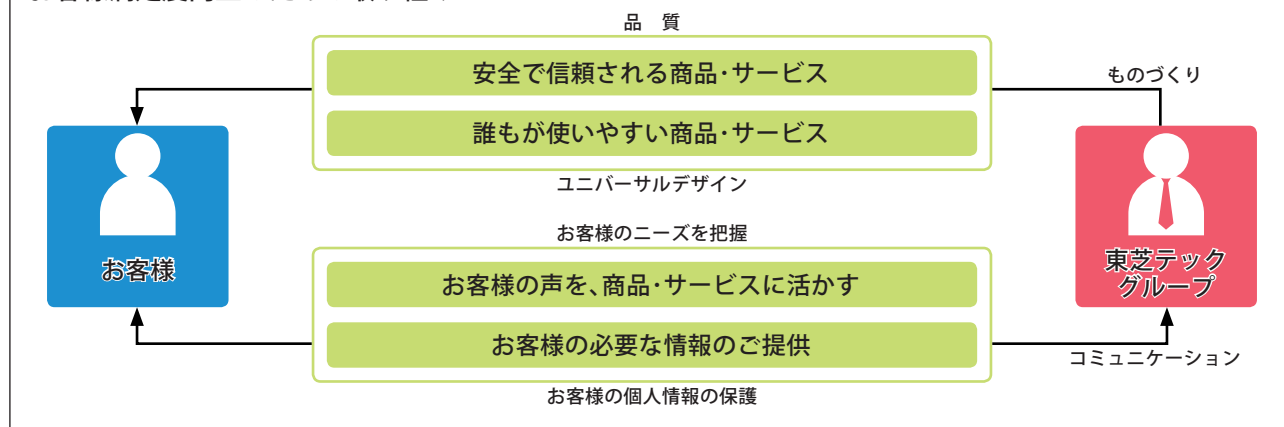
## 関係会社との連携

東芝テックグループでリテールソリューション機器の保守サービスを担当しているテックエンジニアリング(株)およびドキュメントシステム機器の販売・保守サービスを担当している東芝テックビジネスソリューション(株)と連携して情報の共有化を図り、お客様の満足につながるよう改善活動を実施しています。

## (株) 東芝との連携

東芝総合ご案内センターおよびCS推進部と定期的な情報交換することにより、東芝グループの対応・サポートの品質向上に取り組んでいます。

## お客様満足度向上のための取り組み



# ユニバーサルデザインに取り組んでいます

ユニバーサルデザイン(UD)とは、「年齢や障がいの有無に関わらず、できる限り多くの人  
が利用できるよう、製品・建物・環境などをデザインすること」です。

東芝テックでは、POSシステムやMFP（デジタル複合機）など店舗やオフィスで使われ  
る当社製品に即したUDの実現をめざしています。

## UDへの取り組み

製品をお使いの初心者・熟練者・障がいのある方など、  
さまざまなユーザーの方に調査や評価、ご意見の聴取に  
ご協力いただいております。

また、UDに関する研究や実験、製品化に向けての検  
討などを繰り返し行い、誰にでもわかりやすく使いやす  
い製品づくりを進めています。



眼球運動計測装置(アイカメラ)を用いた操作画面の  
使いやすさ実験

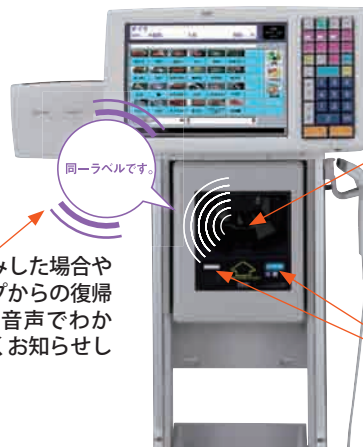


車いすでの操作検討

### スマートラインスキャナ LS-790T



スマートラインスキャナ LS-790T・  
POSターミナル M-8000・レジ台・  
サッカー台で構成したシステム例



二度読みした場合や  
スリープからの復帰  
時など、音声でわか  
りやすくお知らせし  
ます。

初心者の方や読み取り  
難しいバーコードをス  
キャンする時のユー  
ザーの行動に合わせ、ス  
キャナの正面にチュ  
ーニングしたスキャン  
エリアでスムーズにス  
キャンできます。

どなたにも見やすい色  
の左右大きなLED、点滅  
する位置と色で、読み取  
り確認やエラーを确实  
にチェックできます。

### MFP（デジタル複合機）e-STUDIO 5520C/6520C/6530C



e-STUDIO 6530C



上下左右の角度に加え、  
高さも調整できる見や  
すい大型カラー操作パ  
ネル。  
利用者の身長や好み、  
車いすの利用、画面の  
反射にも対応できます。



手の向きが上下どちら  
からでも引き出せる  
用紙カセットハンドル  
です。



凹型の断面で、押しや  
すく、指にフィットす  
る操作ボタン。  
機能ごとに形を変え、  
「スタート」「ストップ」  
「リセット」には、触覚  
記号(凸記号)を併記し  
ています。

全従業員一人ひとりを尊重し、適切な評価・処遇を実践しています。また、安全健康管理を経営の最重要課題として位置づけています。

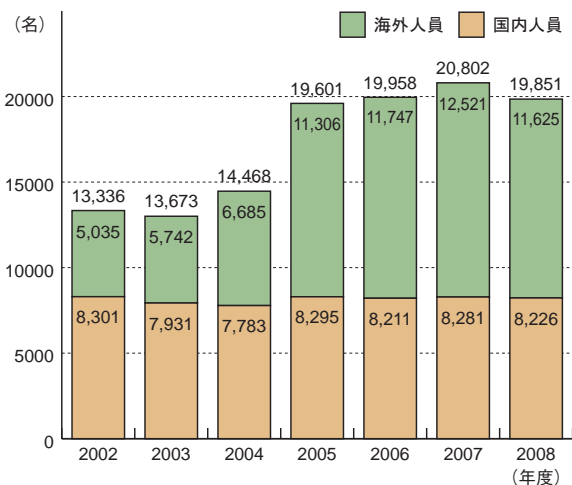
## 人事基本方針

東芝テックグループでは、全従業員一人ひとりを尊重し、それぞれの能力向上に努めています。また、公正で適切な評価・処遇を実践するとともに、自由闊達で健全な組織風土と、仕事と家庭の両立支援への取り組みなど、意欲ある従業員にいきいきと働く環境を整え、挑戦し続ける強いプロ集団をつくることを基本方針として、すべての人事処遇制度を構築しています。

## 従業員数

2008年度下半期は、全世界的な景気後退の影響を受けて、海外製造関係会社における生産高が大幅に減少しました。これに伴う生産にかかわる従業員減に加えて、ドキュメントシステム事業の海外直系販売網の統合によるシナジー効果なども併せると、2008年度末総従業員数は前年度に比し、951名減員し、19,851名となりました。

従業員数の推移（各年度末現在）



## 人事制度

東芝テックでは、全従業員が「働きがい」「やりがい」を感じ、仕事を通じて自己実現を図るとともに、各自の成果が組織の成果と結びつくことで、適切な処遇を実践することを人事制度の基本としています。また、一人ひとりが高い専門性を持つプロとして自立する一方で、組織力を発揮できるプロ集団とするべく、自由闊達で健全な組織風土作りに注力しています。

### 人財活用・育成制度

1) 目標チャレンジ制度	組織目標をブレイクダウンした従業員ごとの目標を設定し、個人の目標達成を組織の目標達成につなげることで、成果に基づいた処遇を実現します。
2) 専門能力評価制度	従業員の専門性を評価し、業務遂行過程に顕在化した専門能力に基づいた処遇を実現します。
3) 役割等級制度	能力を発揮する「場」のレベルの違いによる役割等級を設定し、役割に基づく責任の大きさや難易度などの違いにより、業務に基づいた処遇を実現します。
4) 社内公募の活用	事業重点分野への人材配置の促進と従業員の意欲・希望を実現する機会を設けることで社内での人財活用を促進しています。
5) 雇用延長制度	少子高齢化が急速に進展していることを踏まえ、高齢者の専門性を高め、さらなる積極的な活用を図るため、2002年度から雇用延長制度を導入し、高齢者の豊富な経験・知識を活用しています。

## 男女共同参画・次世代育成支援への取り組み

従来から性別に係わりなく、意欲のある従業員を育成・活用し、いきいきと働くことができる環境を整え、今後も男女共同参画の趣旨を活かした環境整備に取り組んでいきます。仕事と家庭の両立を支援する仕組みの一端として、下表の制度を設け実施しています。

### 次世代育成支援制度

1) 育児休職	子が満3才に達する月の月末まで。
2) 看護休暇	小学校第3学年修了前の子1人につき1年度に5日。また、小学校第4学年以上18歳未満の子を対象に1年度に5日。その他家族についても、さらに1年度に5日。
3) 短時間勤務	育児を目的とする場合：子が小学校第3学年修了する年の3月末日まで。 介護を目的とする場合：被介護者1人につき制度適用を開始した日から3年まで。
4) 年次有給休暇を1時間単位での取得	育児、介護、看護、妊娠による通院又は治療の事由に対して、当年度付与日数のうち20日を越える部分、及び前年度から繰り越された年次有給休暇のうち20日を越える部分の合計日数を限度として、1時間単位でこれを受けることができる。
5) 妊娠保護休暇	妊娠した女性が妊娠に起因する障害のため通院、治療を必要とする等就業が著しく困難なとき、妊娠中及び妊娠4箇月未満の流産後8週間の期間において、14日。



## 障がい者雇用について

東芝テックでは、障がい者と健常者が分け隔てなくともに働ける環境作りをめざしており、障がいを持つ従業員がさまざまな業務を行っています。インターネットでの募集や各種フォーラムなどを通じて、積極的な採用を進めるとともに、職場環境の整備を進め、障がい者の活躍の場をいっそう広げてまいります。

## 教育研修制度

教育研修制度は、本人の自由な意志を尊重しながら高度な専門能力を習得するための研修や、コンプライアンス教育などの全従業員一人ひとりに対する周知啓蒙を図る研修、会社生活におけるステージ毎に行われる階層別研修などから成り立っています。個々人のニーズや業務ニーズに応じた多彩な研修を実施しています。

### 階層別教育

新入社員への各種導入教育にはじまり、新任主任・主務層には財務諸表をベースにした経営に関する基本知識のマスターを主眼とした集合研修、一定期間後にマネージャーとしての役割の理解と課題達成のためのスキル習得を目的とした集合研修を実施しています。

課長層には新任者を対象に、コンプライアンス、企業会計をはじめとした管理のための基礎知識、および一定期間後にコーチングなどのヒューマンスキル向上のための集合研修を実施しています。

さらに部長層には、経営者のセンスで戦略立案を行うためのコンセプトスキル向上を目的とした集合研修、派遣教育を実施しています。

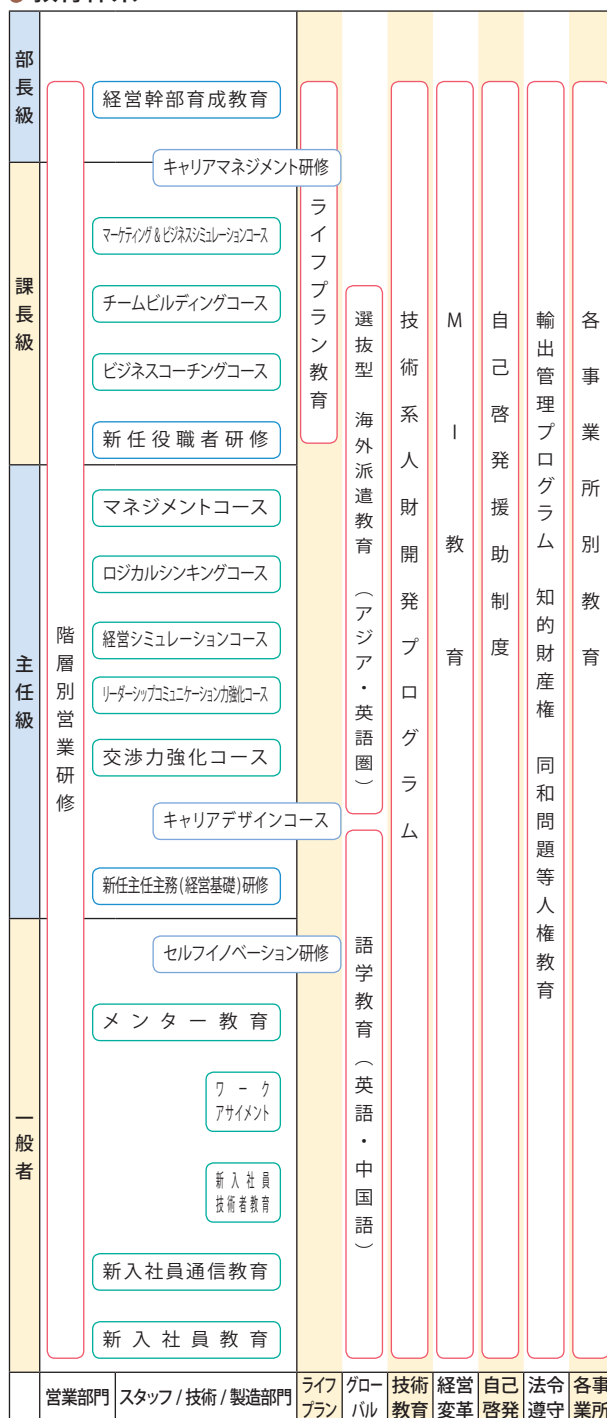


教育研修の風景

### グローバル人材育成制度

現在のビジネス環境は、日本の枠を越えた国際舞台で活躍できる人財の必要性が高まっています。東芝テックでは若手から中堅社員層を対象にグローバル人材育成制度を設け、語学のみならず、国際的に通用する実務知識、教養、センスを兼ね備えた人財の育成を計画的に実施しています。

### 教育体系



## 労使関係

東芝テックと労働組合の間には、労使の憲法ともいべき労働協約が締結され、“会社の発展が組合員の経済的地位の向上を促し、組合員の地位の向上が会社の発展の礎となる”という共存の理念が確認されています。こうした理念のもと、さまざまな経営課題について労使で率直に話し合い、対応の方向性を検討し、相互理解を深める中で労使の力を結集し、生産性向上に取り組んでいます。

## 安全健康への取り組み

### ● OHSAS18001 認証取得

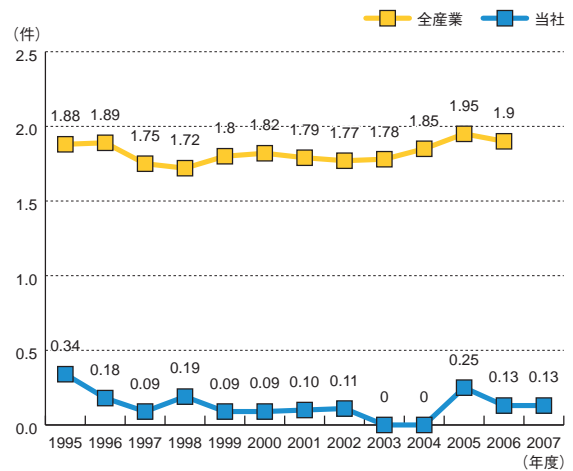
労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な認証規格「OHSAS18001」の認証を三島事業所に続き大仁事業所も認証取得しました。また、すべての製造グループ会社(国内3社、海外6社)でも認証を取得しました。安全な職場と従業員の健康維持・増進に一層取り組んでいきます。



### ● 労働災害の防止

従業員の安全と健康の確保を経営の最重要課題の一つに掲げ、経営トップによる職場安全巡視や安全衛生委員などによる職場安全パトロール、危険予知訓練(KYT)など諸施策を講じています。

### 休業災害発生率（100万時間当たり）



### ● 健康管理の充実

シェイプアップセミナーを開催し、講義と運動による生活習慣病の予防・改善をめざした指導を行っています。メンタルヘルス対策では、研修会やe-ラーニングによる教育など「心の健康」の保持・増進に努めています。また、長期休業者の円滑な職場復帰の取り組みを行っています。



シェイプアップセミナー

公正かつオープンな取引を通じた調達取引先との相互信頼関係の構築に取り組むとともに、法令遵守や人権、環境への配慮を重視する企業との優先取引を進めています。

## 調達方針

東芝グループが広範な商品群をグローバルに事業展開する中で、公正な調達活動を通じて社会的責任を果たすために、東芝テックは東芝グループの一員として、東芝グループ調達方針に沿った調達活動の徹底に努めています。

### 調達方針

#### ■調達の基本方針

- (1) 関連法令の遵守と環境への配慮
- (2) 公正かつオープンな取引の推進
- (3) 調達取引先様とのパートナー関係強化

#### ■調達取引先様の選定方針

- (1) 法令を遵守し、環境への配慮を重視していること。
- (2) 経営状態が健全であること。
- (3) 東芝グループに供給する資材・役務の品質、価格、納期が適正水準にあること。
- (4) 安定供給能力と、需給変動への柔軟な対応力があること。
- (5) 東芝グループ製品に貢献できる技術力を有していること。

#### ■調達取引先様へのお願い

サプライチェーンを通じて、持続可能な社会の形成へ貢献する為に、調達取引先向けに「東芝グループの調達方針について」を作成し、社会的責任に係わる要請事項を「調達取引先様へのお願い」にまとめ、取引先へ周知しています。

## 調達におけるコンプライアンス

世の中では、企業の偽装や虚偽報告問題が連日のようにニュースとなり、該当企業は事業継続さえ危ぶまれる状況となっております。

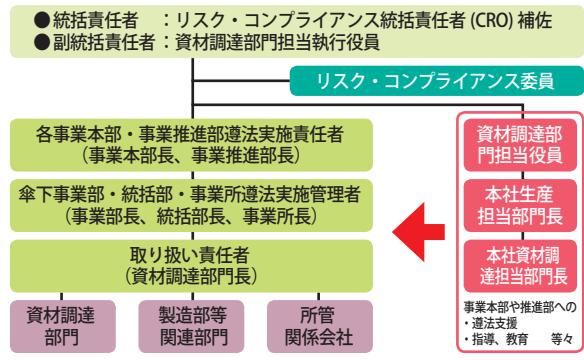
このような中、東芝テックは、コンプライアンスを『事業継続と更なる発展』の最重要項目と位置づけ、e-ラーニング、集合教育などにより日常業務の中での周知徹底を図っております。

特に資材調達部門としては、

- ① 環境保全（グリーン調達）
- ② 品質保持と向上
- ③ 秘密情報保護
- ④ 公正公明な取引

等々の観点から、関連法規遵守徹底に日々取り組んでおります。

### 資材調達適法管理体制



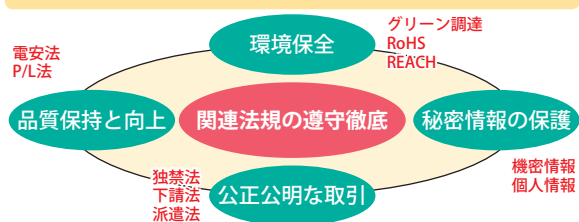
また、常日頃お取引先とコンタクトさせていただく中で、お取引先へのご依頼事項として、再度、お取引先自社のコンプライアンスの周知徹底を図っていただくとともに、もし万が一トラブルが発生した場合を想定し、

- ① 速やかに当社へ連絡を取ることができる体制の構築・強化
- ② トラブルシューティングを速やかに実行（素早く対応、影響を最小限に）できる体制の構築・強化

を改めてお願いしております。

### 調達におけるコンプライアンス

コンプライアンスは『事業継続と更なる発展』の為に最重要項目!!



お取引先におかれましては、万が一トラブルが発生した場合を想定し、

- ① 速やかに当社へ連絡を取ることができる体制の構築・強化
- ② トラブルシューティングを速やかに実行（素早く対応、影響を最小限に）できる体制の構築・強化

を改めてお願いいたします。

## 東芝テック・パートナー・ホットラインの運用

前述のとおり、東芝テックはすべての事業活動において法令、社会規範、企業倫理等の遵守（コンプライアンス）を経営の最優先項目としております。その一環として、物品の製造委託・購入、役務の提供等の取引（調達等の取引）において、当社関係者がコンプライアンス違反をした場合、またはそのおそれがある場合、調達お取引先にその旨を当社へお知らせいただく制度を構築・運用しております。当社自ら、そのような状態を正すため、調達お取引先通報制度『東芝テック・パートナー・ホットライン』を当社の社外向けウェブサイト開設しております。

調達お取引先からご指摘をいただくことで、オープンでクリーンな相互信頼関係を実現し、調達お取引先との健全なパートナーシップを育てていきます。

東芝テックグループでは、行動基準の中で「社会との係わり」に関する基本方針を明確化し、この方針に基づいてさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

## 基本方針

- (1) 地域社会との連帯と協調を図り、良好な関係を維持することにより、地域社会の一員としての責任を果たします。
- (2) 役員・従業員のボランティア活動等を支援するとともに、個々人の公民権の行使について最大限配慮します。
- (3) 東芝テックグループが事業活動を行っている国や地域の発展・向上に貢献することを目的として、公共性、地域社会の要請度合、理由等を勘案して、適時かつ適正な寄付を行います。

## 社会貢献基金の活用

東芝テックでは、よき企業市民として社会福祉に貢献する事業を行うことを目的として、1992年に「東芝テック社会貢献基金」を創立しています。この基金は、従業員からの拠出金とそれと同額の会社からの拠出金をあわせ、地域および全国の社会福祉団体や、地震などによる被災者支援などに寄付しています。

### 社会福祉団体への寄付

- 中央共同募金会 → 10府県、10施設に寄付
- 日本赤十字社大阪支部北大阪血液センター  
→ 右記参照
- 本社(品川区)地区 → 5施設に家電製品を寄付

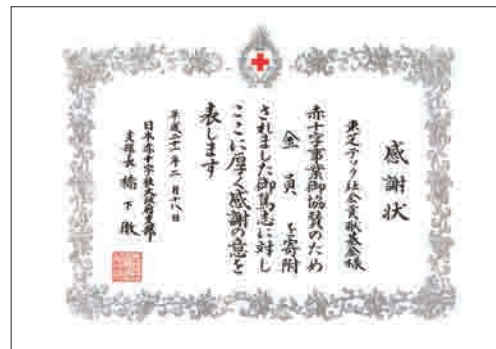
- 三島(三島市)地区 → 2施設と三島市福祉総務課に家電製品および三島市養護老人ホーム建設基金に寄付
- 大仁(伊豆の国市)地区 → 6施設に家電製品を寄付

### 献血用テントの寄贈

献血活動については厚生労働大臣感謝状をいただくなど、これまでも積極的に推進してきましたが、加えて側面からの支援として車両に続き、献血用テントを3張寄贈しました。

### 2008年度災害支援

- 中国四川省大地震 → 100万円



# 東芝テックグループの活動

東芝テックグループでは、社業を活かした活動および継続的な地域との交流に注力し、さまざまな地域貢献・イベントに従業員がボランティアとして参加しています。

## 地域貢献・ボランティア活動

- 三島市社会福祉法人「見晴学園」草刈清掃活動
- 品川区主催「大崎ふくしまつり」「わたしたちの活動紹介展」参加
- プルタブ寄付活動

伊豆市障害者就労支援事業所にプルタブ28kg（約7万個）を寄付しました。



「見晴学園」草刈清掃活動



プルタブ寄付活動



品川区主催「わたしたちの活動紹介展」

- 「環境に優しいお買い物体験」&「レジのスキャン体験」
  - 「消せるインク「e-blue」の実演体験」
- などの社業を活かした活動を紹介

## ■ ハートフルベンダーによる寄付活動

😊 ティー・ティー・ビジネスサービス協働

従業員の任意の金額と売上金の3%の合計金額が東京都共同募金を通じてさまざまな社会貢献福祉事業に役立てられるというこの仕組みにより、1年間で241,052円に募金額を集めることができました。



清掃活動	計 60名
納涼会の開催	計 3,000名
事務所の貸し出し	年 6回
チャリティーコンサート開催	年 1回
献血活動	計 789名
イベントへのボランティア	計 41名
事業所見学および工場見学の受け入れ	計 600名
インターンシップ研修の受け入れ	計 13名
交通安全啓蒙活動街頭指導	計 154名

## 次世代を担う子どもたちの支援

### ■ 東京都内の小学校へ出張授業

😊 テックエンジニアリング協働

東芝テックグループでは、子どもが主役の環境プログラム「キッズISO14000」を支援しています。

子ども達に環境の理解をより深めてもらうために出張授業を行い、従業員が講師やスタッフを務めています。

(2008年度は6校実施)



地球温暖化のモデル実験の様子



## 地球環境のための活動

### ■ 三島市「森の小さなダムづくり」

箱根山中腹(海拔600m)で森の保全と水源涵養に向けたボランティア活動をしています。



### ■ 都市緑化キャンペーン

#### 😊 テックエンジニアリング協働

国土交通省では毎年10月を都市緑化月間とし、銀座の数寄屋橋公園にて花の苗木を配布しております。これに合わせ、女子社員の制服をリサイクルして作った軍手・植木鉢セットを来場者へプレゼントしました。

### ■ ペットボトルキャップの回収

#### 😊 ティー・ティー・ビジネスサービス協働

NPO法人「Reライフスタイル」による回収したペットボトルキャップで、世界の子ども達にワクチンを送る活動に協賛しています。この1年間で、790kg集め、396本のワクチンを子どもたちに送ることができました。

### ■ エコメッセ in ちば

#### 😊 テックエンジニアリング協働

女子社員の制服をリサイクルして作った軍手・植木鉢セットを来場者へプレゼントしました。



### ■ 神奈川県アジェンダの日 2008

#### 😊 テックエンジニアリング協働

神奈川県では環境保全に対する個人の行動の変革を提唱しており、当社は社業を活かした活動を出展しました。



環境に優しいお買い物体験

■ 消せるトナー「e-blue」MFP、社内で継続して活躍中  
2008年7月より、当社の製品である消せるトナー「e-blue」MFPが社内で活躍しています。2008年度のOA用紙の使用量をおよそ11%削減することができました。その一部にこの「e-blue」が寄与しています。今後も従業員ひとり一人が積極的に活用することにより、環境負担低減をめざします。

### ■ 3.9 ペーパーシステムの活用

2008年度は、カレンダー、ダイアリー、ビジネスレポート、社内報に適用し、1年間で11.46tのCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しました。3.9ペーパーシステムとは、印刷物制作者が森林所有者に代わって木材の輸送コストを負担することにより、国産材の活用を促進するものです。



国産材活用証明書

- ♥ 献血
- 📦 寄付・寄贈
- 🌍 環境への取り組み
- 📄 その他 その他の活動
- 👥 ボランティア

\* 各活動の報告に付けたアイコンは、上記の内容を表しています。

## 国内グループ会社

### テックエンジニアリング(株)

- 📦 中国四川大地震による義援金寄付
- 📦 社会福祉法人 中央共同募金会への献金
- ♥ 献血活動参加
- 🌍 清掃活動

地域社会への貢献として、各支社店で継続的に実施しています。

- 👥 環境イベント・緑化イベントへの支援・出展
- 2006年から継続的に活動しています。

### 🌍 ペットボトルキャップの回収

各支社店事業所で、ペットボトルのキャップを回収し、発展途上国の子どもたちにワクチンを送る活動に参加しています。この1年で129kgを集め、ワクチン65本を送ることができました。

### 🌍 エコドライブ活動

2006年からの継続で、全国の支社店、サービスステーションの顧客エンジニア約800名が参加。継続的かつ効果的な活動の継続が評価され、11月には4省庁協働のエコドライブシンポジウムで企業代表として講演発表を務めました。

**環境教育プログラム「キッズISO」の社外導入支援・社内推進**

2004年から自治体支援、従業員と家族への展開、国際認定証授与式スタッフ活動を継続しています。2008年も、多くの従業員子弟がプログラムに取り組み、3名が国際認定を取得しました。

**小学校への環境教育出張授業**

都内小学校からのご依頼により、2006年から実施しています。2008年は東芝テックと協働し、7回(6校)実施しました。



クウェート文科省が視察した品川区小学校での出前授業も担当しました

**インターネットテレビ会議を支援**

キッズISO実施校(青森県・東京都)同士を、テレビ会議システムで結び、90分間の交流会をファシリテートしました。ソフト(交流コーディネーター)、ハード(ネットワーク技術・現地支援)の両面で企画を運営し、青森県内のテレビ番組・新聞でも報道されました。



**東芝テックビジネスソリューション(株)**

**浜辺のクリーンアップ活動**

**公園の清掃活動**

毎月1回、公園の清掃をしています。

**お体の不自由な方のご自宅の除雪作業**



公園の清掃活動

除雪作業

**ペットボトルキャップの回収**

この1年間で、270kg集め、66本のワクチンを子どもたちに送ることができました。

**テックインフォメーションシステムズ(株)**

**ペットボトルキャップの回収**

この1年間で、84kg集め、55本のワクチンを子どもたちに送ることができました。今年は、従業員家族の協力もあり、回収量が大きくアップしました。

**キッズISOへの取り組み**

2005年から継続して活動しています。小学校5,6年生を対象とし、従業員がインストラクターとなって子供達の環境マネジメント活動のサポートを行っています。

**ティー・ティー・ビジネスサービス(株)**

**ペットボトルキャップの回収**

東芝テックと協働 P. 21参照

**ハートフルベンダーによる寄付活動**

東芝テックと協働 P. 20参照

**(株)テーイーアール**

**EXPOエコマネーに参加**

公共機関を利用することで、エコマネーと呼ばれるポイントが貯まり、一定額を超える寄付をすると植樹証がもらえます。

**ペットボトルキャップの回収**

テックエンジニアリングと協働 P. 21参照

**清掃活動**

地域社会への貢献として継続的に活動

**献血活動参加**

年4回、毎年継続して実施しています。

**その他「会社見学／体験学習」開催**

小学生の夏休みの課題「会社見学/体験学習」を実現するため、従業員の子弟(小学生5名)を対象に事業所内の見学およびお父さん・お母さんと一緒に実際の仕事を体験していただく「社員食堂での昼食を含む1日コース」を実施しました。




**その他** 社会福祉法人の学園祭開催にともなう本社駐車場の提供毎年、継続して実施しています。


## テック製造(株)


 三島市「森の小さなダムづくり」  
東芝テックと協働  P. 21参照

 清掃活動  
東芝テックと協働  P. 20参照

## 東静電気(株)

 献血活動参加  
年2回、毎年継続して実施しています。

 その他 インターンシップ研修生の受け入れ  
年2回、毎年継続して実施しています。


 その他 伊豆の国市歯周病予防対策委員会に参加  
年2回、毎年継続して参加しています。

## AIソリューションズ(株)

 ハートフルベンダーによる寄付活動  
東芝テックと協働  P. 20参照

## 海外グループ会社

### 東芝テック深圳社

 植林活動  
深圳市梧桐山、蓮花山公園などで毎年継続して活動しています。





深圳市梧桐山での植林活動


 清掃活動



深圳市鳳凰山での清掃活動

 環境保護の支援  
青海市に環境保護のために20万元(およそ280万円)寄付しました。

 小学校への教育支援(毎年継続)  
2008年度は10万元(およそ140万円)を寄付しました。

 成都「パンダ繁殖研究基地」への寄付  
絶滅の危機にあるジャイアントパンダの保護のために10万元(およそ140万円)寄付しました。



### 東芝テックオーストラリア社

 子どもたちのためのさまざまなチャリティーへの寄付  
マジックのワールド・フェスティバル、白血病チャリティー・レース、クリスマスショーなどに2,750ドル(およそ272,250円)寄付しました。



感謝状

### 東芝テック英国画像情報システム社

  ピンクリボン活動「リボンウォーク」および「ウォークウォーク」への参加

乳がんの啓発活動を行っているイベント「リボン・ウォーク」および「ウォーク・ウォーク」を支援しました。従業員が運営委員として参加し、その他の全従業員が募金に協力しました。スポンサーを通じて、650ポンド(およそ10万円)の寄付金が集まりました。

\*2008年度東芝グループ社会貢献賞“Toshiba ASHITA Award”受賞しました。



  ドレス・ダウン・デー

毎月最終金曜日をドレス・ダウン・デーとし、従業員はカジュアルな服装で出勤することによって最低1ポンドを払い、会社でまとめて寄付に当てます。寄贈先は、地元、国内、国際団体とさまざまです。今年は1年間で2,500ポンド(およそ37万円)の寄付金が集まりました。





**🎁 クリスマスチャリティへの寄付**

クリスマスカードの代わりにBarnardo'sのクリスマス・チャリティに1,000ポンド(およそ15万円)寄付しました。

**🌱 エコドライブ活動**

環境に優しいエコドライブの運転テクニックを従業員に指導しています。

**東芝テックドイツ画像情報システム社**

**🎁 WWF (世界野生生物基金)への寄付**

ビジネスパートナーへのクリスマスプレゼントの代わりにWWF (世界野生生物基金)へ寄付をしました。

この寄付で、375ヘクタールの熱帯雨林を購入することができました。その寄付によって熱帯雨林が保護され、熱帯雨林に生存する絶滅危機にある野生動物が保護されています。



感謝状

**東芝アメリカビジネスソリューション社**

**🎁 ノベルティ品売却による寄付**

マーケティング部にあった在庫のノベルティ品を従業員に売却し、5000ドル(およそ50万円)の収益金額をオレンジ郡のキャンパー財団に寄付しました。これにより、35名の子どもたちをサマーキャンプに招待することができました。

**👤 クリスマスイベントの開催**

昨年に引き続き、戦地に赴いてる軍人の家族にクリスマスイベントを開催しました。従業員が扮したサンタクロースは、クリスマスにまつわる物語を子どもたちに朗読し、子どもたちひとりひとりとふれあいました。サンタクロースと一緒に写真を撮った後、みんなでホットココアとクッキーを楽しみ、最も心の暖まるチャリティー行事となりました。



**👤 海洋研究所へのサポート**

毎年、「海洋研究所」(Ocean Institute)のサポートを支援しています。経済的に恵まれていない子どもが多く通う小学校の児童たちをSea Explorerという船に乗船させ、海洋生物の生態について教えています。



**東芝ビジネスソリューション社 ニューヨーク**

**🎁 👤 母子の保護施設“セント・ジョセフ・ヴィラのメディアルーム”への支援**

セント・ジョセフ・ヴィラは、家庭で虐待を受けたため家族から離れて生活している子どもたちを保護している団体の施設です。

10代の子どもたちのためのメディアルームに必要なノートパソコンやプロジェクターなどの設備を会社から寄贈し、従業員が設置を行いました。

また、従業員が子どもたちに自主制作映画の作り方を指導しました。

\*2008年度東芝グループ社会貢献賞“Toshiba ASHITA Award”受賞しました。



メディアルームでの子どもたちとの交流

**東芝テックアメリカ流通情報システム社**

**👤 クリスマスキャロルの実施**

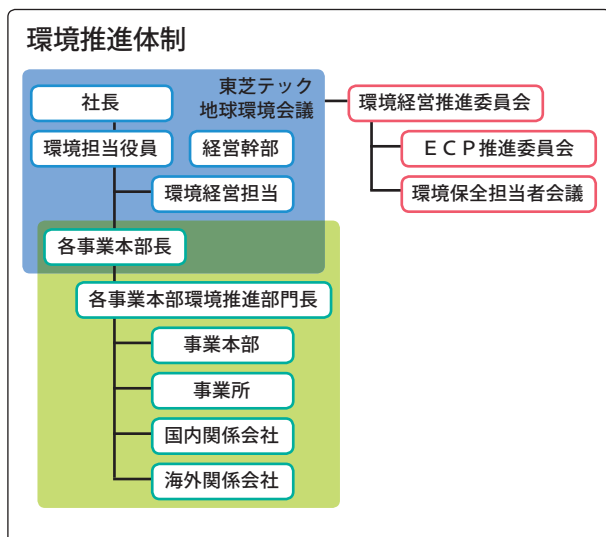
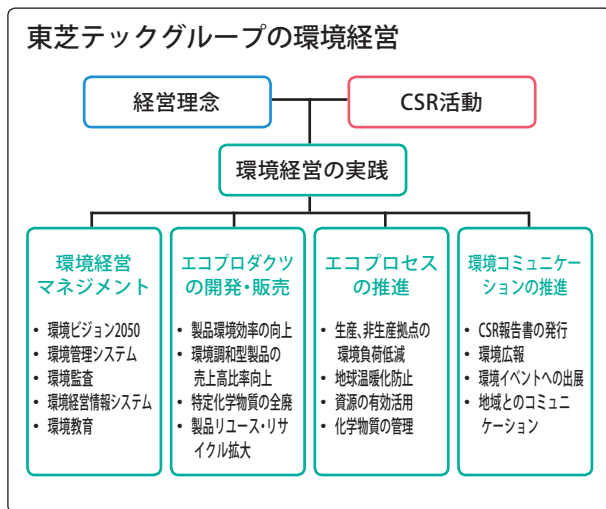
毎年、病院、養護施設および高齢者施設に出向いて、クリスマスのひとときを一緒に過ごしています。



かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代へ引き継いでいくため、すべての事業活動において環境への配慮を優先したモノづくりを通して地球社会の発展に貢献します。

### 環境経営の実践

東芝テックグループは、経営理念とCSR活動に基づいて環境経営を実践しています。環境経営の重要な柱として、「環境経営マネジメント」、「エコプロダクツの開発・販売」、「エコプロセスの推進」、そして「環境コミュニケーションの推進」を掲げ、環境対応に積極的に取り組んでいます。



東芝テック地球環境会議

### 環境基本方針

東芝テックグループはリテールソリューション、ドキュメントシステムなどの事業をグローバルに展開し、環境に配慮したモノ創りを通して地球社会の発展に貢献します。

かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、すべての事業活動において環境への配慮を優先し、「私たちの約束」である経営理念と、企業の社会的責任に基づいてグループ・グローバルの環境経営を実践します。

- 環境経営の重要な柱として、「環境経営マネジメント」、「エコプロダクツの開発・販売」、「エコプロセスの推進」、「環境コミュニケーションの推進」を掲げ、環境対応に積極的に取り組む。
- 「環境経営マネジメント」
  - 事業活動、製品、サービスに関わる環境的側面について、環境負荷の低減、汚染防止などに関する環境目的および環境目標を設定・推進し、継続的な改善・向上を図る。
  - 世界の国／地域に適用される環境に関する法律・条令、およびその他東芝テックグループとして受け入れを決めた事項などを順守する。
- 「エコプロダクツの開発・販売」
  - 環境調和型商品提供のため、環境に配慮した材料・部品のグリーン調達および省資源、省エネルギー、特定化学物質全廃設計を推進する。
  - 環境調和型商品の販売を促進する。
  - 使用済み製品の回収・リサイクルや部品の再使用などで、循環型社会構築に貢献する。
- 「エコプロセスの推進」
  - 省資源、省エネルギー、化学物質の適正管理に取り組み、環境配慮生産をおこなう。
  - 環境に配慮した文房具・OA機器などのグリーン購入を推進する。
- 「環境コミュニケーションの推進」
  - 社員一人ひとりが環境活動を推進できるように、環境教育・啓蒙活動を展開し、環境マインドを高める。
  - 環境方針、環境活動について広く社内外へ積極的に公開する。
  - 行政、地域、関係団体などと協調し、社会全体の環境活動に参画・協力する。

東芝テックグループ  
2008年4月改訂

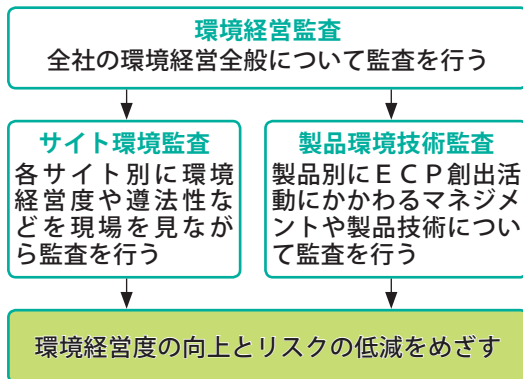
# グループ一体となった体制で環境経営を実践

地球環境を健全な状態で次世代へ引き継ぐために、グループ全体の環境対応方針を決定し活動しています。環境経営推進のためにグローバルな体制を確立し、環境経営監査や環境会計により活動をチェックし、環境教育により従業員一人ひとりが環境活動を実践する風土作りをしています。

## 東芝グループ環境監査(EASTER)

EASTERは東芝が独自に開発した環境監査システムで、1993年から東芝グループの各生産拠点で年1回実施されています。特徴は現場主義とレベル評価です。

2006年度からコンプライアンスの徹底などを目的とした、新しい基準で生産・非生産拠点の監査を実施しました。



## 環境会計

環境保全コストとその効果を定量的に把握し、企業活動の指針として活用するために環境会計制度を導入しています。

2008年度の環境保全コストは、連結で設備投資1.2億円、費用10億円を投入しました。特に温暖化防止や省エネルギーに対策に投資しました。一方、効果は7.7億円となりました。製品の使用段階での環境負荷低減が大きくなっています。

## コストと効果

集計対象：東芝テック3生産事業場および本社、国内生産関係会社3社、海外生産関係会社6社  
集計期間：2008年4月1日～2009年3月31日

## 環境保全コスト

単位：百万円

分類	内容	投資額		費用		対07年度費用増減	
		連結	単独	連結	単独	連結	単独
(1) 事業エリア内コスト	環境負荷低減①～③	116.3	99.0	173.4	111.9	-33.8	-30.7
① 公害防止コスト	大気、水質、土壌汚染防止など	21.7	12.8	40.3	14.7	6.0	4.3
② 地球環境保全コスト	温暖化防止、オゾン層保護など	94.5	86.2	75.8	55.3	-14.9	-20.5
③ 資源循環コスト	廃棄物のリサイクルなど	0.0	0.0	57.3	41.9	-25.0	-14.5
(2) 上・下流コスト	グリーン購入、製品回収リサイクルなど	0.0	0.0	144.5	138.6	-0.1	0.7
(3) 管理活動コスト	EMS構築、環境教育、緑化・美化など	0.0	0.0	454.2	411.4	27.4	27.2
(4) 研究開発コスト	環境調和型製品のための技術開発など	7.6	0.0	226.3	224.3	-76.2	-64.9
(5) 社会活動コスト	団体への寄付、支援など	0.0	0.0	6.2	5.5	3.0	3.1
(6) 環境賠償コスト	土壌汚染修復など	0.0	0.0	0.3	0.3	-0.4	-0.4
	合計	123.9	99.0	1,004.9	892.0	-80.1	-65.0

## 環境保全効果

単位：百万円

分類	内容	東芝テック	関係会社	合計
実質効果	電気料や水道料などの削減で直接金額表示できるもの	-6.6	28.6	22.0
みなし効果	環境負荷の削減量を金額換算したもの	-546.4	0.7	-545.7
顧客効果	使用段階での環境負荷低減効果を金額換算したもの	1,293.6	0.0	1,294
リスク回避効果	投資前後の環境リスク減少額を算出したもの	0.0	0.0	0.0
	合計	740.6	29.4	769.9

## 実質効果の内訳

単位：百万円

項目	環境負荷低減量*	金額換算
エネルギー	東芝テック	-447GJ -5.7
	関係会社	8,619GJ 26.3
	合計	8,172GJ 20.6
廃棄物最終処分	東芝テック	0.4t -0.7
	関係会社	24.8t -0.5
	合計	25.2t -1.2
用水	東芝テック	-14.6千m <sup>3</sup> -0.3
	関係会社	57.7千m <sup>3</sup> 2.9
	合計	43.1千m <sup>3</sup> 2.6
総合計		22.0

\* 環境負荷低減量は、2007年度と2008年度の差分。  
マイナス効果は、生産増加などにより削減効果以上の環境負荷の増大があったことを示します。

## みなし効果の内訳

単位：百万円

項目	環境負荷低減量*	金額換算
化学物質などの排出削減効果	東芝テック	-14.7t -546.4
	関係会社	-0.04t 0.7
	合計	-14.7t -545.7

## 顧客効果

単位：百万円

項目	環境負荷低減量*	金額換算
使用段階での環境負荷低減	電力	1,392万kWh 320
	ロール紙	1,651t 973

### みなし効果算出方法

環境基準とACGIH-TLV（米国産業衛生専門家会議で定めた物質ごとの許容濃度）をもとに、カドミウム換算した物質ごとの重みづけを行い、カドミウム公害の賠償費用を乗じて金額を算出。大気・水質・土壌などへの環境負荷の削減量を前年度対比で示すとともに金額換算して表示することで、異なる環境負荷を同一の基準で比較することを可能にしています。

### 顧客効果算出方法

製品のライフサイクルを通じての環境負荷低減効果を物量単位と貨幣単位（金額）で評価します。ライフサイクルとは、1原料調達、2製造、3輸送、4使用、5取集運搬、6リサイクル、7適正処理などのすべての段階をいいます。今回は使用段階での環境負荷低減効果に焦点を当てました。省エネルギー効果に関しては次式を用いて効果を計算。

### リスク回避効果算出方法

土壌・地下水などの汚染防止を目的とした防液堤など環境構造物投資に対する効果を、将来起きる可能性のあるリスクを回避する効果として評価します。リスク回避効果は、設備投資案件ごとに次の方程式により算出します。ここで浄化修復基準金額と発生係数は東芝独自に算出した値を用い、化学物質の漏洩などが起きた場合のリスクを評価します。

効果(円) = Σ [(旧機種の間年消費電力量 - 新機種の間年消費電力量) × 年間販売台数 × 電力量目安単価]  
リスク回避効果 = 化学物質等保管・貯蔵量 × 浄化修復基準金額 × 発生係数

2005年度から推進している第4次環境ボランティアプランは、その活動を京都議定書第1約束期間に合わせて2012年度まで延長しました。

### 第4次環境ボランティアプランの2008年度実績

2008年度は製品に関する推進項目はいずれも目標を達成しました。事業プロセスでは、最終処分量の削減、国内CO<sub>2</sub>排出量、海外の廃棄物削減および化学物質削減は目標を達成しました。しかし、国内では新製品開発・評価の拡大により廃棄物が増加、また薬品洗浄を伴う製品製造の増加により、化学物質の排出量が増加しました。製品物流に伴うCO<sub>2</sub>原単位は生産高の減少で悪化し、海外では予想を上回る生産高の減少でCO<sub>2</sub>原単位が悪化しました。

#### ● 製品に関する目標

注) 評価の○は2008年度目標達成、×は未達成

推進項目	指標・目標	2008年度目標	2008年度実績	評価
製品のファクター	2000年度を基準に2010年度に2.2倍 <sup>1)</sup>	1.88	2.37	○
環境調和型商品の提供	2005年度に設定した新環境自主基準に適合した商品（環境調和型商品）の売上高比率を2010年度に60%に拡大	70%	71%	○
エコプロダクツによるCO <sub>2</sub> 削減効果 (t)	データ把握		18,445	○
特定化学物質の全廃	製品に含まれる特定15物質群 <sup>2)</sup> を2010年度に全廃	90%	全廃	○

#### ● 事業プロセスに関する目標

推進項目	指標・目標	2008年度目標	2008年度実績	評価
地球温暖化の防止	① エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量削減 国内生産拠点 実質生産高 <sup>3)</sup> CO <sub>2</sub> 排出量原単位を1990年度基準で2010年度に45%削減 海外生産拠点 生産高CO <sub>2</sub> 排出量原単位を2004年度基準で2010年度に6%削減	40%削減	44.5%削減	○
	② 製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 排出量削減 国内の東芝テック製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 排出量を生産高原単位で2004年度基準で2010年度に18%削減	06年度基準で24%削減	06年度基準で18%削減	×
資源の有効活用	① 廃棄物総発生量の削減 国内生産拠点 生産高総発生量原単位を2000年度基準で2010年度に30%削減 海外生産拠点 生産高総発生量原単位を2004年度基準で2010年度に9%削減	20%削減	18%削減	×
	② 廃棄物最終処分量の削減 国内生産拠点 最終処分率2010年度に全拠点で0.7%達成 海外生産拠点 最終処分率2010年度に全拠点で1%達成	全拠点1%以下	全拠点1%以下	○
	③ 廃棄物最終処分量の削減 国内生産拠点 最終処分率2010年度に全拠点で1%達成	6拠点平均6.8%	6拠点平均6.10%	○
化学物質管理	大気・水域への排出量削減 <sup>4)</sup> 国内、海外生産拠点の大気・水域への排出量を2000年度基準で2010年度に50%削減	国内：66%削減 海外：10%削減	国内：31%削減 海外：29%削減	×

\*1: 対象は主要製品。製品の環境効率=製品の価値÷製品の環境影響  
\*2: 東芝グループが定めた15物質  
\*3: 実質生産高= [名目生産高] ÷ [日銀国内企業物価指数(電気機器) 1990年度を1とした時の比率]  
国内電力のCO<sub>2</sub>換算係数は1990年度3.74、2008年度は2010年度2.97を考慮し3.17t-CO<sub>2</sub>/万kWhを採用。  
海外電力のCO<sub>2</sub>換算係数は当該国・地域独自の値を採用。  
\*4: 対象は東芝グループが定めた449物質

### 第4次環境ボランティアプラン見直し

2009年度からは2012年度までに計画されている新規生産拠点を含み、国内・海外を含めたグローバル目標に統合しました。

新規に計画されている生産拠点は部品加工を主体とし、既存の組み立て型の拠点に比べ、エネルギー多消費の生産形態となります。したがって、2009年度以降の目標については、2008年度実績に対しては増加となります。

管理面の改善、計画的な設備投資などにより、CO<sub>2</sub>、廃棄物、化学物質などの排出量をできるだけ抑制する取り組みを進めていきます。

指標		基準年	2008年度実績	2009年度	2012年度			
エコプロダクツ	製品のファクター	2000年度		2.03	2.55			
	環境調和型製品の売上高比率	—		75%	85%			
	エコプロダクツによるCO <sub>2</sub> 削減効果	2000年度		18,000t	25,000t			
	製品に含まれる特定15物質	—		100%	100%			
エコプロセス	地球温暖化の防止	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	グローバル生産拠点	1990年度	98%	132%	182%	
			CO <sub>2</sub> 排出原単位		87%	115%	136%	
		国内生産拠点	53%	61%	59%			
	製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 排出量(国内)	CO <sub>2</sub> 排出原単位	2006年度	82%	87%	87%		
			2000年度	63%	75%	67%		
		資源の有効活用	廃棄物の総発生量削減	排出量原単位	2000年度	63%	75%	67%
				最終埋立処分率	—	2.5%	2.5%	0.5%
	製品リユース・リサイクル	使用済み製品再資源化量	2001年度	430%	430%			
			水使用量の削減	受入量原単位	2000年度	49%	54%	54%
	化学物質の排出量	大気・水域への排出量	2000年度	72%	86%	93%		

注) 原単位目標には活動を評価できる指標として、物量ベースの実質生産高原単位を使用。  
実質生産高= [国内名目生産高] ÷ [日銀国内企業物価指数(電気機器) 1990年度を1とした時の各年度の比率] + [海外名目生産高]  
国内電力のCO<sub>2</sub>換算係数は1990年度3.74、2008年度以降は2.97t-CO<sub>2</sub>/万kWhを採用。  
海外電力のCO<sub>2</sub>換算係数は当該国独自の値を採用。  
最終処分率の2012年度0.5%は当該国・地域での再資源化ルートおよび焼却施設などの整備が条件。

# 2008年度の環境負荷

地球資源からの採取や、汚染物質の放出を最小化し、環境調和型商品の開発など環境に配慮した活動を最大化していきます。また、製品のライフサイクルの各段階で環境負荷を把握、分析して環境負荷削減に取り組んでいます。

## ライフサイクルでの環境負荷

東芝テックグループの製品は、取引先から原材料・部品を調達し、加工・組み立てて出荷されます。製品は外部に委託した運送会社によって倉庫・販売店などへ輸送さ

れます。お客様で使用済みになった製品はできるだけ回収し、再使用したり再資源化しています。

製品のライフサイクルの各段階で環境負荷を調べると下図のようになります。

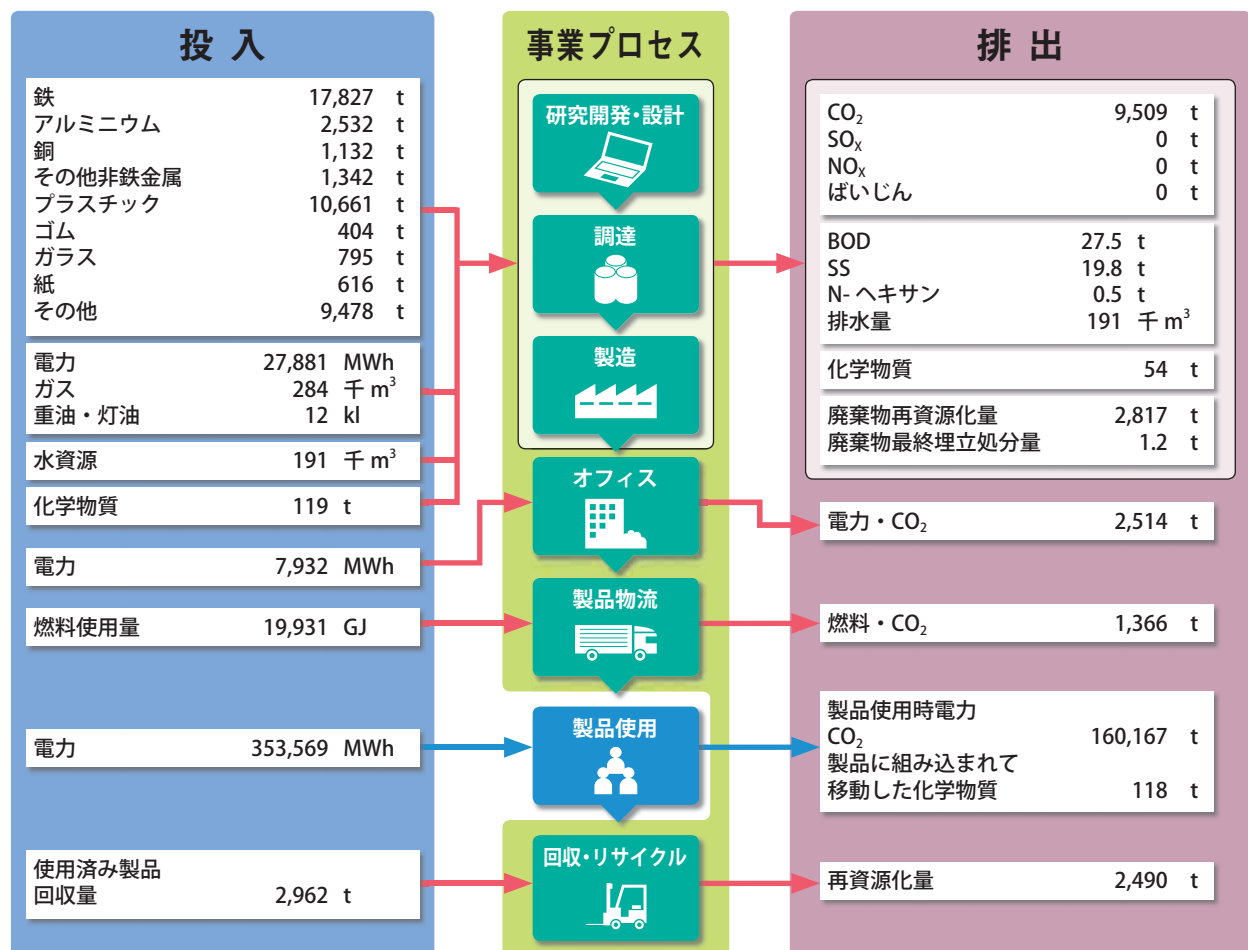
生産段階では、全エネルギー消費によるCO<sub>2</sub>排出量が工場で9,500トン、オフィスで2,500トンです。

化学物質の使用による大気・水域への排出が54トン、廃棄物の埋立処分量は1.2トン、また、排出物の再資源化量は2,800トンなどです。

一方、2008年度に出荷した主要製品が製品寿命までの期間に排出するCO<sub>2</sub>排出量は約160,000トンとなっています。

このことから、製品の省エネルギーが重要であることがわかります。

### 2008年度の環境負荷



注)  
 \*1 : 集計対象: 東芝テックおよび国内関係会社。ただしオフィスは東芝テックのみ。  
 \*2 : 材料・部品調達の投入:  
 1) 東芝テックは資材調達データから東芝グループ独自の手法で算出  
 2) 関係会社は主要製品の素材構成から算出した推計値

\*3 : 化学物質の対象: 東芝が指定した449物質  
 \*4 : 製品物流 : すべて外部委託分のCO<sub>2</sub>  
 \*5 : 製品使用時のCO<sub>2</sub> : 2008年度に出荷した主要製品が製品寿命までの期間に排出するCO<sub>2</sub>  
 \*6 : 電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、事業プロセスでは3.17t-CO<sub>2</sub>/万kWh、製品使用時は電気事業連合会の使用端公表値0.425kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用

# 環境調和型商品の提供で、社会の環境負荷低減に貢献

製品のライフサイクル全体を通じて環境負荷を低減した環境調和型商品の開発に取り組んでいます。東芝グループの環境効率指標「ファクターT」を運用しながら活動スピードを加速しています。

## 製品開発の考え方

東芝テックは、製品のライフサイクル<sup>\*1</sup>全体を通じて環境負荷を低減した「環境調和型商品 (ECP<sup>\*2</sup>)」の創出に取り組んでいます。特に、製品のライフサイクル中に発生する環境負荷の大部分は、製品の企画・設計段階で決定されるため、製品開発の上流における取り組みに注力しています。

\*1: 製品のライフサイクル: 原材料調達、製造、輸送、使用、リサイクル、廃棄に至るすべての段階

\*2: ECP (Environmentally Conscious Products)

## 環境に配慮した製品開発への取り組み

東芝テックは、国内外の法規制への遵法はもとより、グリーン購入法への適合、エコマーク(日本)やブルーエンジェルマーク(ドイツ)、国際エネルギースタープログラムなどの主要な環境ラベルの取得を重視し、商品企画の段階からそれらの規格への適合をめざした製品開発に取り組んでいます。さらに、今後規制内容が具体化される欧州EuP指令や欧州REACH規則などへの対応の準備を進めています。

また、自主的な取り組みとしては、第4次環境ボランティアプランにおける製品関係の項目として、「製品環境効率の向上」、「環境調和型商品の提供」、「特定化学物質の全廃」があります。

「環境調和型商品の提供」は、商品群ごとに業界トップレベルの環境配慮事項を定めた「商品別環境自主基準<sup>\*3</sup>」を設定し、それを製品開発のターゲットとするものです。

 \*3 商品別環境自主基準URL:

<http://www.tec.jp/env/pos2.htm>

<http://www.toshibatec.co.jp/gcompany/env/eco04.htm>

「商品別環境自主基準」は、製品のライフサイクル全体を通じて環境負荷を低減すべきとの観点から、製品ライフサイクルの各段階について環境配慮事項を定めています。2008年度には、事務コン、POS周辺機器、POSターミナル、RFIDリーダライタ、バーコードプリンタ、カラー複合機など商品分野で新たな適合商品が生まれました。第4次環境ボランティアプランでは、2010年度までに環境調和型商品の売上高比率60%を目標としていますが、2008年度には71%を達成しました。

環境自主基準適合商品は、製品カタログなどに「東芝グループECPマーク」を表示して情報開示を行っています。

以下は、新基準に適合した2008年度の環境自主基準適合商品の一例です。

### 環境調和型製品



高速フルカラー MFP  
e-STUDIO6530C



POSターミナル  
WILLPOS-Unity M-8000



スマートラインスキャナ  
LS-790T



ラベルプリンタ  
B-SX8R-TE25

### 高速フルカラー MFP 「e-STUDIO6530C」

クラスNo.1の高画質、クラス最小、最軽量を狙って開発しました。サテライトローラベルト定着技術を用いることで高速かつ安定した定着を実現し、国際エネルギースタープログラムなどに適合しています。



ドキュメントシステム事業本部  
設計第三技術部  
イメージングプロセス設計第二担当  
プロジェクトリーダー  
野沢 泰三

## 環境効率・ファクター T

東芝テックは、2004年度より製品の価値と環境への影響を指標化した「環境効率」の考え方を取り入れ、基準年度と評価対象年度の製品の環境効率を比較した指標「ファクター T」の運用を行ってきました。

「環境効率」は、製品の価値を、製品の環境影響で割ったもので、環境影響が小さいほど、また製品の価値が大きいほど、環境効率は大きくなります。

### 「環境効率」の定義

$$\text{環境効率} = \frac{\text{製品の価値}}{\text{製品の環境影響}}$$

### 「ファクター」の定義

$$\begin{aligned} \text{ファクター} &= \frac{\text{評価製品の環境効率}}{\text{基準製品の環境効率}} \\ &= \text{価値ファクター} \times (1/\text{環境影響ファクター}) \end{aligned}$$

製品の価値は、当社製品の使い勝手や満足度などのお客様の声をもとに、QFD<sup>\*1</sup>という手法で算出しています。

また、製品の環境影響は、LCA<sup>\*2</sup>手法を用いて、製品のライフサイクルにおけるさまざまな環境影響を統合して算出しています。なお、環境影響の統合化には、産業技術総合研究所ライフサイクルアセスメント研究センターがLCA国家プロジェクトと連携して開発したLIME<sup>\*3</sup>を用いています。

ファクターとは、評価製品の環境効率が基準製品の何倍かを表す値で、評価製品の環境効率が優れているほど、ファクターの値は大きくなります。

以下は、主要商品のファクターの一例です。

この中で、「価値ファクター」とは基準製品に対する評価製品の価値の相対値、「1 / 環境影響ファクター」は同じく環境影響の相対値です。

- \*1: QFD (Quality Function Deployment)「品質機能展開」
- \*2: LCA (ライフサイクルアセスメント)
- \*3: LIME (Life-cycle Impact assessment Method based on Endpoint modeling)「日本版被害算定型影響評価手法」

## 主要商品のファクターと改善ポイント

ファクター	2.34	1.76
商品名	 POSターミナル WILLPOS-Micro AP-70	 高速フルカラー複合機 e-STUDIO6530C
価値改善の主なポイント	価値ファクター：1.34 ・ 設置場所を選ばないコンパクトボディ	価値ファクター：1.35 ・ 便利なタッチパネル ・ スピードアップ ・ 高速電子化
環境改善の主なポイント	1/ 環境影響ファクター：1.75 ・ 待機電力 41%削減 ・ 製品サイズ 88%削減 ・ 製品質量 75%削減	1/ 環境影響ファクター：1.30 ・ 新開発定着機構で CO <sub>2</sub> 削減 ・ 再生プラスチック材採用 ・ 有害物質削減

取引先の環境保全評価や調達品の環境性能調査を実施し、設計・生産・資材などの部門で活用しています。

### グリーン調達への取り組み

東芝テックは環境調和型商品を提供するため、商品に関わる原材料などの調達段階での取り組みとして、グリーン調達を実施し、環境保全に積極的に推進している取引先から、環境負荷の小さい納入品の調達を行うことを指向しています。そのため、(株)東芝と協同で「グリーン調達ガイドライン」を策定しました。

### 取引先での環境保全の推進

調達にあたって、環境保全への積極的な取り組みを実施されている会社を優先します。

#### 環境保全の取り組み

- 1) 環境方針の設定
- 2) 環境保全システムの整備
- 3) 教育や実施確認の仕組み



グリーン調達ガイドライン

### 納入品への環境関連物質含有の管理

調達品について環境関連法規制の遵守、環境関連物質管理基準の遵守、および環境負荷の小さい納入の提供をお願いしています。

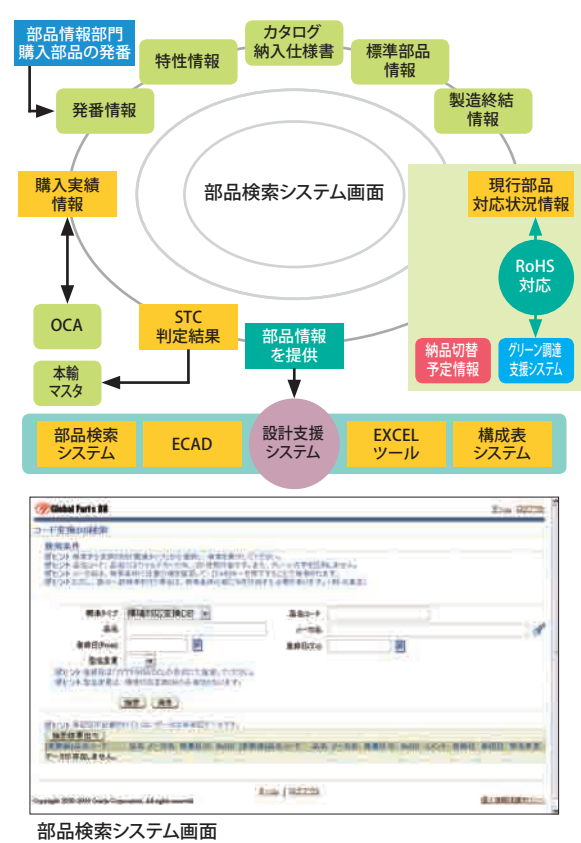
#### 環境関連物質含有管理

- 1) 関係部署や取引先への周知徹底
- 2) 環境関連物質管理に関する要求事項の実現
- 3) 環境関連物質使用状況調査への回答
- 4) 上記の回答にあたって必要情報の入手
- 5) 分析測定の実施・お取引先様からの分析結果の入手(必要に応じ)
- 6) お取引先様の管理体制の調査と把握

### データの活用

グリーン調達支援システムの環境性能情報をグローバル部品データベースを介して社内のさまざまなシステムに提供し、設計部門、生産部門、資材部門などで活用しています。

#### 部品データベースと設計支援システム



部品検索システム画面



東芝テックでは使用済み製品回収・リサイクルに取り組んでいます。

## POSなどの回収・リサイクルシステム

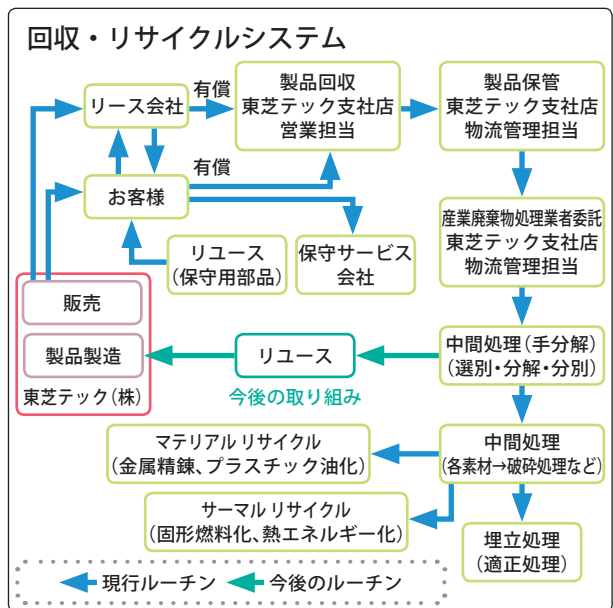
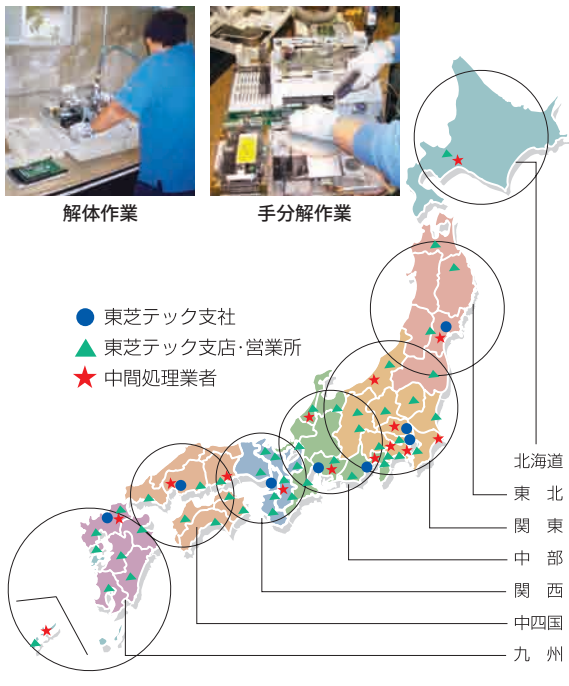
東芝テックではPOSシステムのトップランナーの責務として、お客様の使用済み製品の回収・リサイクルに取り組んでいます。2002年4月から関東・中部・関西・北海道地区で試行を開始し、2002年10月からは回収・リサイクルシステムの対象地区を全国に拡大して北海道、東北、関東、中部、関西、中四国、九州の各地区ごとに回収・リサイクルを実施しています。

リサイクルは、回収した機器を手分解してできる限り素材単位への分別を行い、マテリアルリサイクルを拡大する方針で取り組んでいます。

### 回収・リサイクルシステム

#### 特長

- ・ 全国54カ所の東芝テック支社・営業所が窓口となり、使用済み製品を回収します。
- ・ 使用済み流通機器は、メーカーを問わず回収します。
- ・ お客様から 処分委託を受けるに当たり、有償化を促進します。
- ・ 手分解による詳細な分解・分別作業により、資源のリサイクル率の向上、および廃棄物の抑制を実現します。



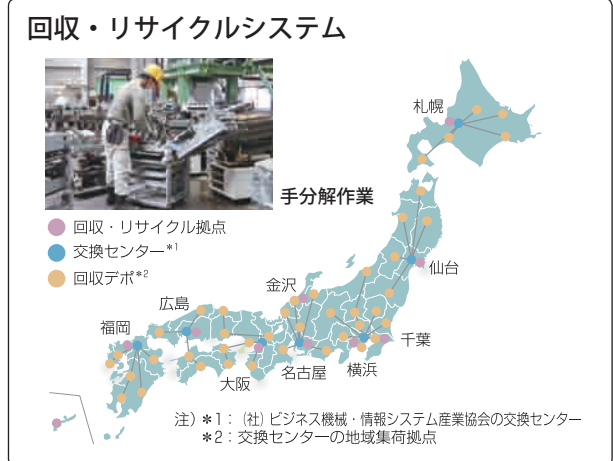
## 複写機の回収・リサイクルシステム

東芝テックでは、お客様や販売元である東芝テックビジネスソリューション株式会社、解体・リサイクル委託先である株式会社テルムなどと連携して複写機の回収・リサイクルを実施しています。

1998年から東京・神奈川地区で回収・リサイクルが開始し、現在は国内全域9拠点で実施しています。

回収された製品の分解作業は再資源化しやすいように手作業で行い、素材単位まで分別するようにしています。その結果、98%以上が再資源化されています。

また、回収効率向上のために社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)の交換センターを利用し、各社が回収した東芝テックの製品を引き取るシステムにも参加しています。



# 事業活動に伴う CO<sub>2</sub> 排出量削減

事業活動にともなって排出されるCO<sub>2</sub>排出量を削減するための取り組みを進めています。なお、東芝テックグループではCO<sub>2</sub>以外の温暖化効果ガスの排出はありません。

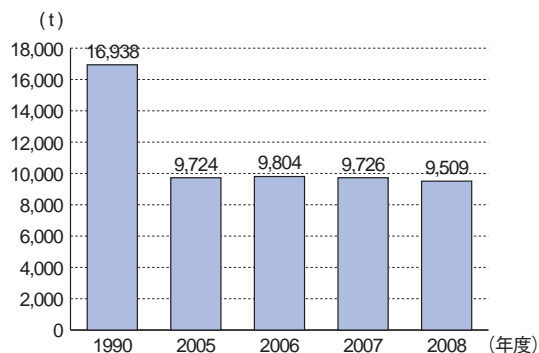
## エネルギー使用量増加の影響を最小限に

エネルギー使用にともなうCO<sub>2</sub>排出量を削減するために、グローバルで管理面の改善、設備投資を通じた省エネルギーに取り組んでいます。

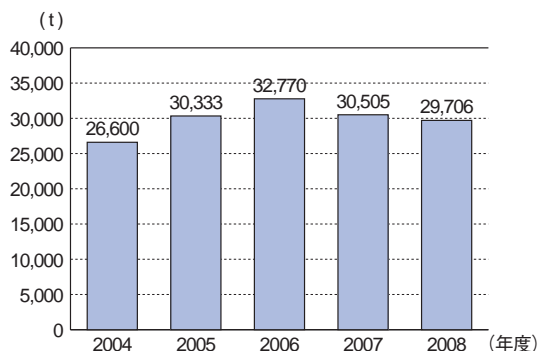
2008年度は国内では前年比2%減少し、海外では前年比3%減少しました。

注) 国内電力のCO<sub>2</sub>換算係数は経団連公表値を採用。1990年3.74、2005年度3.81t-CO<sub>2</sub>/万kWh。但し2006年度以降は2010年度2.97を考慮し、2006年度3.29、2007年度3.21、2008年度3.17t-CO<sub>2</sub>/万kWhを採用。海外は当該国独自の換算係数を採用。

### 国内生産拠点 CO<sub>2</sub> 排出量



### 海外生産拠点 CO<sub>2</sub> 排出量

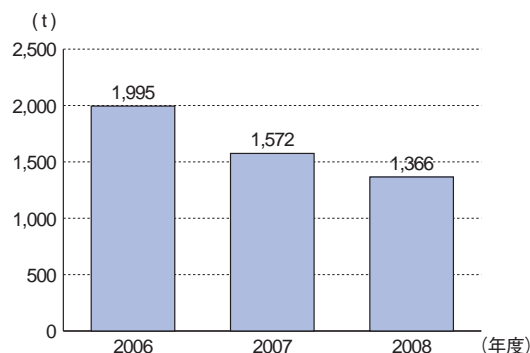


## 物流での省エネルギーを推進しています

2008年度は配送集約や貸切車のエコドライブ、ハイブリッド車の利用、モーダルシフトなどを行い、前年比13%減少、06年度比32%減少しました。

注) 対象はリテールソリューション事業、ドキュメントシステム事業、およびオートID・プリンタ事業。

### 製品輸送に伴う CO<sub>2</sub> 排出量



ジャスミン・ゴ

東芝テックシンガポール社(シンガポール)では22箇所の空調の冷媒を変更した結果、それぞれの空調の消費電力を平均23%削減しました。

照明も262個の蛍光灯を高効率蛍光灯に置き換えることにより、各蛍光灯の消費電力を39%削減しました。



高効率蛍光灯

東芝テック深圳社(中国)では、工場敷地内の社員寮の屋上にある2基の温水用ボイラーのうち1基を、2008年12月に従来の軽油式から太陽熱電気併用式に置き換えました。もう1基についても置き換えを計画中です。

今回の対応によりエネルギー効率が改善され、軽油タンクを撤去することで、環境リスクを低減することができます。太陽熱を長期に渡り利用することにより、環境負荷が削減されることが見込まれます。



リックチャン

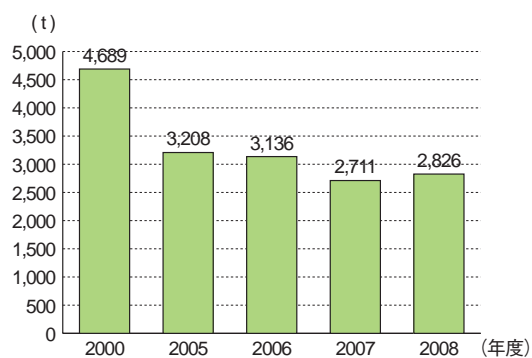
## 事業活動に伴う廃棄物の発生抑制、 化学物質の管理

資源の有効活用のために、リサイクル利用も含めた総排出量の削減に取り組んでいます。国内は、MFPの新製品開発のために評価用紙や廃トナーが増加し、2008年度は前年比で5%増加しました。廃棄物の発生を抑えられる新製品開発に引き続き努力していきます。海外では、調達品の通い箱(再利用できる容器)での納入を進めてダンボールを削減しています。その結果、2008年度は前年比15%減少しました。

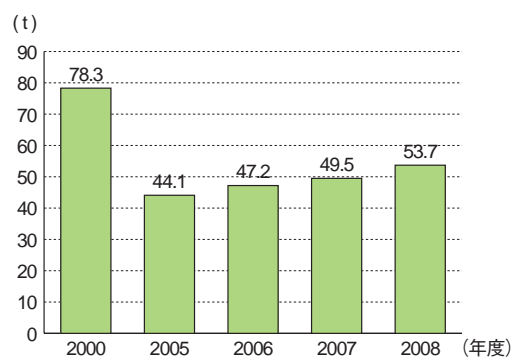
「有害な物資はできるだけ使用しない」「可能な限り削減・代替を進める」「使用する場合は適性に管理する」という方針に基づいて化学物質を取り扱っています。環境関連法に該当する物質を「禁止」「削減」「管理」に分けて管理・削減に取り組んでいます。「削減物質」については大気や水域への排出量削減に努めています。国内では洗浄工程を必要とする製品の生産量が増加したため、2008年度は前年比10%増加しました。今後は除去装置の導入により大気放出を削減していく計画です。

**東芝テックグループではオゾン層破壊物質は全廃済みです。**

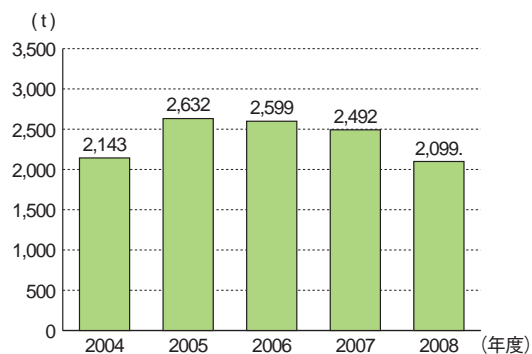
国内生産拠点の廃棄物排出量



国内生産拠点の化学物質排出量



海外生産拠点の廃棄物排出量



海外生産拠点の化学物質排出量



# 社会の皆様とともに環境活動を

社会のさまざまな立場の方々に東芝テックグループの環境経営をご理解いただき、ともに環境活動を推進するため、多様なメディアを通じてコミュニケーションを図っています。

## 環境コミュニケーションの考え方

東芝テックグループは経営理念で「人々の安全・健康と、地球資源の保全・保護のためにすべての事業活動において環境への配慮を最優先する」としています。

持続可能な社会構築のために東芝テックグループは常に環境問題と真摯に向き合っています。

しかし、社会全体の環境問題への対応には、東芝テックグループだけでなく、社会のさまざまな立場の方々にご理解いただき、ともに活動を推進していくことが大切だと考え、環境問題に取り組む姿勢や活動に、さまざまなメディアを通じてコミュニケーションを図っています。

## 社内広報活動

### ECPコーナー（大仁事業所）

技術部門のECPコーナーには、第4次環境ボランティアプランの取り組み、環境自主基準適合商品、ECP改善事例、東芝グループ環境展出版パネルなどを展示しています。



### 環境コーナーと電光掲示板（三島事業所）

正門近くの掲示板に環境方針、組織、計画の推進状況、環境ニュースなどを掲示しています。さらに電光掲示板を使った文字情報の提供も併せて行っています。

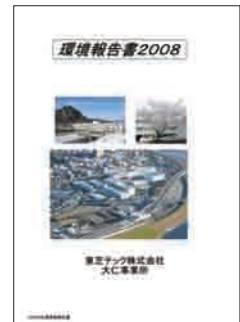


## 環境報告書

東芝テックは2000年から毎年環境報告書の日本語版と英語版を発行しています。また、大仁事業所、三島事業所ではそれぞれのサイトの環境報告書を発行し、地域住民や行政に対して情報開示しています。



三島事業所



大仁事業所

## 環境ニュース

「環境月間」、「3R推進月間」、「地球温暖化防止月間」などのトピックスのほか、月間推進項目などの紹介をしています。また、ご家族にも読んでいただくように推進しています。



三島事業所



大仁事業所

## 北関東支社「軽自動車でもエコ推進」

営業車に軽自動車を活用して、「低燃費でエコ推進」をアピールしています。

- ・燃費改善プラス市街地の快適移動と駐車利便性
- ・思ったよりたくさん荷物が積み小回りもOK
- ・乗り心地は快適、運転性は楽、市街地営業に最適



北関東支社  
流通システム第2  
松山 頌平

軽自動車と松山社員

● 東芝テック北欧社

スウェーデンにある東芝テック北欧社は、ナショナル・ジオグラフィックなどに写真を提供している著名な写真家マティアス・クラム氏と過ごす「キャンプ東芝」を実施しました。



キャンプ東芝

キャンプ東芝はスウェーデンのロードショーの一環として、販売店が招待したお客様が集まり、自然の素晴らしい色彩、野生生物を探索すると共に、新しいカラー複合機を学んでいただくことにより、カラーのないモノクロ印刷の世界が如何に不鮮明であるか、体感していただきました。

キャンプ中では、マティアス・クラム氏は環境破壊が如何に急速に増大しているか、彼自身が撮影した写真や資料と共に講演されました。また、東芝テックが新製品を開発する際の環境配慮事項を表明すると共に、当社のカラー複合機e-STUDIO5520Cシリーズの販売開始時にすべてのモデルでノルディックスワンラベルを取得したことも発表されました。

WEB 詳しい環境情報は、ウェブサイトで報告しています。

<http://www.toshibatec.co.jp/csr/environment/indexj.html>

● 環境経営マネジメント

環境推進体制、環境活動、中長期環境戦略、環境会計、事業場環境マネジメント

● エコプロダクツ

環境調和型商品開発、環境負荷低減、グリーン調達、使用済み製品回収・リサイクル・部品リユース、環境ラベル・グリーン購入法

● エコプロセス

温暖化防止と省エネルギー、廃棄物削減と省資源、化学物質管理、物流環境負荷低減への取り組み

● 環境コミュニケーション



社会環境活動



エコプロダクツ



社会・環境活動(CSR)についてのお問い合わせ

## 第三者意見

# 第三者意見



立命館大学 産業社会学部教授  
篠田 武司氏

名古屋大学大学院経済学研究科博士課程修了。  
専門分野は社会経済学。  
経済理論学会、進歩経済学会、北ヨーロッパ学会などに所属。

現在の研究課題は、グローバル化の中での新たな経済的・社会的ガバナンスのあり方、ならびにワーク・ライフバランスの比較研究。調査対象地域としては北欧とラテンアメリカ。

昨年のアメリカ発の金融危機は、たちまち全世界を経済的な困難に陥らせました。日本もまた例外ではありません。輸出に大きく依存する日本経済は、金融面での影響は比較的少なかったとはいえ、実態経済の面では大きな影響を受け、各企業は不況の中で苦しんでいます。かつて、1990年代の不況時において、その当時強調され始めた企業の社会貢献活動が、不況の中で後退するという事態が少なからずみられ、心あるステークホルダーに不信感を抱かせたものです。しかし、企業が困難な時こそ企業理念の真価が問われる時だと考えます。企業のCSRは、企業活動が困難な時にむしろ意識的に推進されてこそ、企業価値が高まるといえるでしょう。2007年度以来、東芝テックは自らを「地球内企業」として位置づけ、地球環境への責任、また多様性を尊重した経営と人材育成、個人の能力が開花されるようなワークスタイル・イノベーションなどに取り組んでこられました。「生命・安全・コンプライアンス」とともに、引き続き、本年度もCSRにむけてのトップのメッセージは不変であり、その成果を期待したいものです。それでは、内容について触れておきましょう。

第一に、本年度の「CSR 報告書」は、読者アンケートに基づき、まず読みやすくしたことが特徴となっています。多様なステークホルダーの人々が目にするこうした報告書は、如何に内容を理解しやすく伝えるのかが極めて重要

だと考えますが、アンケートを取り、意見を聞きながら改善していくという姿勢は評価に値することです。

第二に、「環境と東芝テック」の項についてです。ある調査では、大企業レベルでもいまだCO<sub>2</sub>排出量の中長期目標を策定していない企業は現在約55%に上るといいます。その点では、中長期環境戦略をもつ貴社は先進的なグループに入るといえるでしょう。特に、目標と実績が当年度ごとに評価され、記述されていることは高く評価できます。ただし、生産高CO<sub>2</sub>排出量原単位の目標ばかりでなく、いずれ総排出量の目標が本格的に日本でも課題となってくるかと考えますので、それに対応する政策を貴社も検討する準備を進めていくことが必要となってくるでしょう。また、貴社のさまざまな地球環境への対応の中で「環境効率・ファクターT」の取り組みは、製品レベルで環境への配慮が、人々によく「見える」という点で重要な取り組みだと考えます。他方で、最近、個々の製品ごとのCO<sub>2</sub>排出量の「見える化」（カーボン・フットプリント＝炭素の足跡）を進める取り組みが世界的に始まっていますが、これも検討すべき課題となってくるでしょう。

第三に、「人と東芝テック」の項についてです。地球環境への取り組みについては中長期的目標が策定され、その実績が毎年評価されております。この項でも、こうした中長期的目標とまたその実績の報告が欲しいと考えます。EUなどでは、たとえば「ダイバーシティ（多様性）経営」が人権や個人の能力の開発といった面からだけでなく、それが経営の活力を生むという点からも注目されていますが、その際各企業は具体的な目標を設定するようになってきています。「ワークスタイル・イノベーション」についての具体化がもっと進むことを期待しております。なお、企業の研修能力が落ちてきているといわれる現在、研修制度については充実していると評価できます。報告書の中で研修が自分にとってどんな意義があったのかといった声が載っておれば、なおその必要性がクリアになるかと考えます。

第四に、貴社のグローバル化に伴い、海外でのCSRの取り組みも大変重要になってきているかと思えます。海外での社会貢献活動の報告とともに環境や人の側面での海外での目標の設定なども今後の課題になるか考えます。

全体として、報告書はアンケートの意見を取り入れながら読みやすいように工夫されていて評価できます。あえていうならば、専門的な言葉など、あるいは伝えたいことなどは、特別に「コラム」などを設けて解説するといったことも検討してはどうでしょうか。

GRI ガイドライン項目と、東芝テックグループCSR 報告書2009 における該当ページを記載しています。

## 1. 戦略および分析

- 1.1 戦略に関する組織の最高意思決定者の声明・・・P.3-4

## 2. 組織のプロフィール

- 2.1 組織の名称・・・P.1  
 2.2 主要な製品/サービス・・・P.6  
 2.3 組織の経営構造・・・P.7  
 2.4 組織の本社の所在地・・・P.2  
 2.5 報告組織の所在国名・・・P.2  
 2.6 所有形態の性質および法的形式・・・P.2  
 2.8 以下の項目を含む報告組織の規模・・・P.2

### • 従業員数、純売上高あるいは純収入、提供する製品またはサービスの量

## 3. 報告要素

### • 報告書のプロフィール

- 3.1 提供する情報の報告期間・・・P.2  
 3.2 前回の報告書発行日・・・P.2  
 3.3 報告サイクル・・・P.1  
 3.4 報告書に関する質問の窓口・・・裏表紙

### • GRI内容索引

- 3.12 報告書内の基準開示の所在場所を表す表・・・P.38、ウェブサイト

## 4. ガバナンス、コミットメントおよび参画

### • ガバナンス

- 4.1 最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造・・・P.7-8  
 4.2 最高統治機関長の執行役員兼務・・・P.7  
 4.8 組織内で開発した使命および価値についての声明、行動規範および原則・・・P.5  
 4.9 関連のあるリスクと機会および基準、行動規範および原則への遵守・・・P.8

### • 外部へのイニシアティブへのコミットメント

- 4.11 予防的アプローチまたは原則への取り組み・・・P.8-10  
 4.12 外部で開発された、組織が同意または受諾するイニシアティブ・・・P.1, P.38

### • ステークホルダー参画

- 4.14 組織に参画したステークホルダー・グループのリスト・・・P.1

## 5. マネジメント・アプローチおよびパフォーマンス指標

### <経済>

### <環境>

#### • 環境パフォーマンス指標

##### 原材料

- EN1・・・P.28

##### エネルギー

- EN3・・・P.28

- EN4・・・P.28

- EN5・・・P.27, P.33

##### 排出物、廃水および廃棄物

- EN16・・・P.28, P.33

- EN17・・・P.28

- EN19・・・P.34

- EN20・・・P.28

##### 製品およびサービス

- EN26・・・P.29, P.30

- EN27・・・P.28, 32

##### 輸送

- EN29・・・P.33

### <労働慣行とディーセントワーク(公正な労働条件)>

#### • 労働慣行とディーセントワーク(公正な労働条件)パフォーマンス指標

##### 労働安全衛生

- LA8・・・P.17

- LA9・・・P.17

##### 研修および教育

- LA11・・・P.16

### <人権>

### <社会>

#### • 社会パフォーマンス指標

##### コミュニティ

- SO1・・・P.9-10

### <製品責任>

#### • 製品責任のパフォーマンス指標

##### 製品およびサービスのラベリング

- PR5・・・P.12-14

『東芝テックグループ CSR 報告書 2009』をご覧ください、  
ありがとうございました。

皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。

## FAX : 03-6422-7111 東芝テック(株)総務部 CSR 推進センター

● お読みになって、東芝テックの CSR 活動をどのように評価されましたか？

- 非常に評価できる  評価できる  普通  あまり評価できない  全く評価できない

● この報告書をお読みになってどのように感じになりましたか？

- 内容  充実している  普通  不足している  
ページ数  多い  適当  少ない  
デザイン  良い  普通  悪い  
分かりやすさ  分かりやすい  普通  分かりにくい

■ この報告書の内容のうち、特に印象に残った項目は何でしたか？（複数回答可）

- |          |                                       |  |  |
|----------|---------------------------------------|--|--|
| 序章       | <input type="checkbox"/> トップメッセージ     | <input type="checkbox"/> 経営理念          | <input type="checkbox"/> 事業展開          |
| マネジメント   | <input type="checkbox"/> コーポレート・ガバナンス | <input type="checkbox"/> CSR マネジメント    | <input type="checkbox"/> コンプライアンス      |
| 人と東芝テック  | <input type="checkbox"/> 株主・投資家       | <input type="checkbox"/> お客様           | <input type="checkbox"/> 従業員           |
|          | <input type="checkbox"/> 取引先          | <input type="checkbox"/> 社会貢献活動        |  |
| 環境と東芝テック | <input type="checkbox"/> 環境経営マネジメント   | <input type="checkbox"/> エコプロダクツ       | <input type="checkbox"/> エコプロセス        |
|          | <input type="checkbox"/> 環境コミュニケーション  |  |  |
|          | <input type="checkbox"/> 第三者意見        | <input type="checkbox"/> GRI ガイドライン対照表 | <input type="checkbox"/> 冊子とウェブサイトについて |

● この報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか？

- お客様  取引先  株主  政府・行政関係  研究・教育関係  
 報道関係  金融・投資機関  企業・団体の環境担当者  企業・団体の購買担当者  
 環境の専門家  環境NGO・NPO  東芝テックが立地する地域の方  東芝テックの従業員・家族  
 学生  その他(具体的に: )

● その他ご意見、ご感想がありましたらご記入ください。

( )



# 冊子とウェブサイトについて

## 冊子

「東芝テックグループCSR報告書2008」発行数  
日本語版3,000部、英語版2,500部  
を発行しました。

## <アンケート>「CSR報告書2008」にいただいた主なご意見

- 専門用語が難しくわかりにくい。
- 文字がもう少し大きいとさらに読みやすい。
- レイアウトにももう少し工夫がほしい。
- 東芝テックグループ各社の活動をもう少し取りあげて欲しい。



### ■ 2009年度から改善した項目

- 目に優しい色、文字の濃さ、大きさに配慮しました。
- 従業員の顔や声をより多く載せました。
- よりグループ・グローバルを意識したページにしました。
- 2008年に重点的に取り組んだ活動をわかりやすく掲載しました。

## ウェブサイト

CSRウェブサイトの訪問数とページアクセス数(08.4-09.3)

訪問数	73,552件
ページアクセス数	233,382件

ウェブサイトでは、冊子に掲載した事項の詳細や、より広い範囲の情報を掲載しています。



東芝テックグループCSRウェブサイト

URL <http://www.toshibatec.co.jp/csr/indexj.html>

# 東芝テック株式会社

総務部 CSR推進センター

〒141-8664 東京都品川区東五反田2-17-2(オーバルコート大崎マークイースト)

TEL. 03-6422-7039 URL. <http://www.toshibatec.co.jp>

FAX. 03-6422-7111 e-mail. [csr@toshibatec.co.jp](mailto:csr@toshibatec.co.jp)



この印刷物は、植物油100%の「大豆油インキ」を使って、「水なし印刷」で印刷しております。